

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジンヘイセイイリョウガクエン 学校法人平成医療学園								
フリガナ大学の名称	タカラヅカイリョウダイガク 宝塚医療大学 (Takarazuka University of Medical and Health Care)								
大学本部の位置	兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘1								
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に則り、「徳義の涵養と人間性尊厳の実践」を理念として、広く一般教養を授けるとともに深く学術・教育の理論及び応用を教授研究し、人間性豊かで幅広い視野を持った人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	観光は、我が国の基幹産業への発展が期待されているが、その実現のためには拡大が予想されるインバウンド需要や高サービス化に対応できる付加価値の高い人材の育成が必要である。 また、観光の事業環境は社会の変化に影響され大きく変動する。それ故、求められる人材には、時代の趨勢を踏まえた観光専門職として必要な知識・能力に加え、変化する状況に対応できる実践的能力が不可欠である。 新設学部は、本学の医療技術分野における経験も活かし、このような観光専門職人材を育成することで観光産業及び地域に貢献することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	観光学部 観光学科	年	人	年次人	人	学士 (観光学)	令和6年4月 1年次	(1年次) 沖縄県宮古島市城辺字 福里619番地1 (2～4年次) 兵庫県尼崎市道意町六 丁目6番地3	
	計		100	-	400				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	観光学部観光学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	観光学部 観光学科	7人 (4)	5人 (5)	4人 (3)	0人 (0)	16人 (12)	0人 (0)	29人 (10)
		計	7人 (4)	5人 (5)	4人 (3)	0人 (0)	16人 (12)	0人 (0)	1人 (-)
	既設分	保健医療学部 理学療法学科	6 (6)	3 (3)	3 (3)	2 (2)	14 (14)	2 (2)	18 (18)
		柔道整復学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	3 (3)	14 (14)	2 (2)	32 (32)
		鍼灸学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	1 (1)	29 (29)
		口腔保健学科	5 (4)	2 (2)	3 (1)	1 (0)	11 (7)	0 (0)	42 (33)
		和歌山保健医療学部 リハビリテーション学科	9 (9)	3 (3)	6 (6)	5 (5)	23 (23)	0 (0)	24 (24)
		和歌山保健医療学部 看護学科	8 (7)	4 (3)	3 (3)	6 (6)	21 (19)	6 (3)	27 (22)
	計	41 (39)	15 (14)	20 (18)	17 (16)	93 (87)	11 (8)	1人 (-)	
合計	48 (43)	20 (19)	24 (21)	17 (16)	109 (99)	11 (8)	1人 (-)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		45人 (41)		32人 (30)		77人 (71)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		4 (3)		2 (2)		6 (5)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		

要	計		49 (44)	34 (34)	83 (76)	備考
	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	
校 地 等	校舎敷地	43,503.93 m ²	3,729.24 m ²	0 m ²	47,233.17 m ²	借用面積：2,723.67m ² 借用期間：45年1月 借用面積：3,268.03m ² 借用期間：28年11月 借用面積：9,439.71m ² 借用期間：29年 借用面積：970.97m ² 借用期間：29年 借用面積：11,037.18m ² 借用期間：42年 *内801.55m ² は別科で使用。 別科で使用する用地の内、 借用面積：290.59m ² 借用期間：16年6月
	運動場用地	22,012.12 m ²	0 m ²	0 m ²	22,012.12 m ²	借用面積：538.70m ² 借用期間：45年1月 借用面積：3,100m ² 借用期間：42年
	小 計	65,516.05 m ²	3,729.24 m ²	0 m ²	69,245.29 m ²	借用面積：3,262.37m ² 借用期間：45年1月 借用面積：3,268.03m ² 借用期間：28年11月 借用面積：9,439.71m ² 借用期間：29年 借用面積：970.97m ² 借用期間：29年 借用面積：14,137.18m ² 借用期間：42年 *内801.55m ² は別科で使用。 別科で使用する用地の内、 借用面積：290.59m ² 借用期間：16年6月
	その他	13,902.36 m ²	333.95 m ²	0 m ²	14,236.31 m ²	借用面積：737.63m ² 借用期間：45年1月 借用面積：131.97m ² 借用期間：28年11月 借用面積：534.00m ² 借用期間：29年 借用面積：820.00m ² 借用期間：42年
	合計	79,418.41 m ²	4,063.19 m ²	0.00 m ²	83,481.60 m ²	借用面積：4,000.00m ² 借用期間：45年1月 借用面積：3,400.00m ² 借用期間：28年11月 借用面積：9,973.71m ² 借用期間：29年 借用面積：970.97m ² 借用期間：29年 借用面積：14,957.18m ² 借用期間：42年 *内801.55m ² は別科で使用。 別科で使用する用地の内、 借用面積：290.59m ² 借用期間：16年6月

		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	備考				
校 舎		36,505.98㎡ (29,246.92㎡)	0㎡ (2,592.46㎡)	0㎡ (740.00㎡)	36,505.98㎡ (3,257.38㎡)	和歌山看護専門学校 収容定員150名 面積基準：740.00㎡ (令和6年3月廃止予定) *内、8,419.94㎡は別科で使用。 別科で使用する用地の内、 借用面積：1,097.57㎡ 借用期間：17年6ヶ月				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	98室	4室	34室	2室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		観光学部 観光学科		14 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	観光学部観光学科	26,449 [200] (25,529 [120])	88 [58] (68 [58])	58 [58] (58 [58])	20 (10)	1,542 (695)	0 (0)			
	計	26,449 [200] (25,529 [120])	88 [58] (68 [58])	58 [58] (58 [58])	20 (10)	1,542 (695)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数	収納可能冊数		大学全体			
		1,190.7㎡		200	120,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		3220.94㎡		テニスコート1面、多目的グラウンド1面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	一千円	一千円	
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	一千円	一千円	
		図書購入費	16,920千円	5,880千円	3,800千円	300千円	300千円	一千円	一千円	
	設備購入費	41,846千円	30,110千円	0千円	0千円	0千円	一千円	一千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,400千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	一千円	一千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			雑費等収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	宝塚医療大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	保健医療学部	年	人	年次人	人		0.95		兵庫県宝塚市 花屋敷緑ガ丘1	
	理学療法学科	4	70	-	280	学士(保健医療学)	0.91	平成23年度		
	柔道整復学科	4	60	-	240	学士(保健医療学)	1.02	平成23年度		
	鍼灸学科	4	30	-	120	学士(保健医療学)	0.93	平成23年度		
	口腔保健学科	4	64	-	64	学士(口腔保健学)	-	令和5年度		
	和歌山保健医療学部						1.01		和歌山県和歌山市 中之島2252	
リハビリテーション学科	4	100	-	400	学士(保健医療学)	0.99	令和2年度	和歌山県和歌山市 西庄1107-26		
看護学科	4	50	-	100	学士(看護学)	1.12	令和4年度			
附属施設の概要		名称：宝塚医療大学附属治療院 目的：保健医療学部の臨床実習施設 設置年月日：平成23年4月1日 面積：治療院 261㎡ 待合室 28㎡ 事務所 8㎡ その他 30.53㎡ 計 327.53㎡ 場所：兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘1								

教育課程等の概要																
(観光学部観光学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
導入教育科目群	初年次教育	1①	1					○								
	日本語表現	1②	1					○		1						
	情報リテラシー演習Ⅰ	1①	1					○					兼1	メディア		
	情報リテラシー演習Ⅱ	1②	1					○					兼1	メディア		
	小計(4科目)	—	4	0	0			—		0	1	0	0	0	1	
外国語教育科目群	英語総合1	1①	2					○			1				メディア	
	英語総合2	1②	2					○			1				メディア	
	英語総合3	1③	2					○			1				メディア	
	英語総合4	1④	2					○			1				メディア	
	英語コミュニケーション1	1①	1					○		1		2				
	英語コミュニケーション2	1②	1					○		1		2				
	英語コミュニケーション3	1③	1					○		1		1				
	英語コミュニケーション4	1④	1					○		1		1				
	English for Tourism 1	2①	2					○			1				メディア	
	English for Tourism 2	2②	2					○			1				メディア	
	英語演習1	2①		1					○		1					
	英語演習2	2②		1					○		1					
	英語演習3	2③		1					○		1					
	英語演習4	2④		1					○		1					
	英語演習5	3①		1					○		1				メディア	
	英語演習6	3②		1					○		1				メディア	
	中国語1	2③		1					○						兼1	
中国語2	2④		1					○						兼1		
語学短期留学	1休		1						○	1				集中		
中期留学	2・3休		4						○	1				集中		
	小計(20科目)	—	16	13	0			—		2	1	2	0	0	1	
キャリア教育科目群	基礎インターンシップⅠ	1通	1						○		1	1			集中	
	基礎インターンシップⅡ	1通	1						○	1		1			集中	
	中期インターンシップ	2・3休	4						○	3	2	1			共同・集中	
	観光におけるキャリア	2①		2					○		1					
	観光分野での起業	2④		2					○		1					
	小計(5科目)	—	6	4	0			—		3	2	1	0	0	0	
教養教育科目群	我々の時代の理解A	1②		2				○							兼1	メディア
	我々の時代の理解B	1④		2				○							兼1	メディア
	比較文化論	2②		2				○							兼1	メディア
	ことばと文化・社会	2②		2				○		1						
	日本文学	2②		2				○							兼1	
	西洋文学	2③		2				○							兼1	
	日本・東洋思想	2④		2				○				1				
	西洋思想	2①		2				○				1				
	宗教学	2①		2				○		1						
	日本史	2②		2				○							兼1	
	日本文化史	2④		2				○							兼1	
	日本食文化	2①		2				○							兼1	
	文化人類学	2③		2				○		1					メディア	
	心理学	2①		2				○							兼1	
	経営学基礎A	2②		2				○			1					
	経営学基礎B	2④		2				○				1				
	国際政治学入門	2③		2				○		1						
	国際経済学入門	2④		2				○				1				
	宮古文化論	1③		2				○							兼1	
	宮古島の環境と風土A	1③		2				○							兼1	
宮古島の環境と風土B	1④		2				○							兼1		
空手・古武道	1①・②・③・④		1					○		1						
くいちやー	1②		1					○						兼1		
	小計(23科目)	—	0	44	0			—		3	2	2	0	0	9	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	基盤科目群	社会学入門	1④	2			○			1					兼1	メディア
		社会調査法Ⅰ	2②	2			○								兼1	
		社会調査法Ⅱ	2③	2			○								兼1	
		観光学概論	2①	2			○								兼1	
		観光社会学	2②	2			○								兼1	メディア
		データサイエンスⅠ	2①	1				○							兼1	
		データサイエンスⅡ	2②		1				○						兼1	
		データサイエンスⅢ	2③		1				○						兼1	
		AI基礎	2④		2			○							兼1	メディア
	小計(9科目)	—	11	4	0		—		1	0	0	0	0	4		
	基幹科目群	観光産業入門	1③	2			○				1					集中
		ツーリズム論	2①	2			○				1					共同
		観光企業研究Ⅰ	1④	2			○				1				兼1	
		観光企業研究Ⅱ	2③～④		2		○								兼1	
		観光地理学A	2・3②		2		○								兼1	
		観光地理学B	2・3④		2		○								兼1	メディア
		観光と食	2・3③		2		○								兼1	
		大使館観光局ゲスト講義	3①～②		2		○			1						
		リスクマネジメント	2・3③		2		○								兼1	オムニバス
		広報・マスコミ対応	2・3④		2		○				2					
		観光メディア論	2・3②		2		○				1					
		観光関連法規	2・3④		2		○					1				
		人体の構造と機能	1①		2		○								兼1	
		東洋医学入門	1②・③・④		2		○								兼1	
公衆衛生学		2②		2		○								兼1		
介護の基本		2③		2		○		*						兼1	*演習	
メディカルツーリズム論		2・3④		2		○								兼1		
観光医療Ⅰ		3①		2		○		*						兼1	*演習	
観光医療Ⅱ		3②		2		○								兼1		
ホスピタリティ		2・3②		2		○			1					兼1		
地域ボランティア	1通		1			○							兼1			
エコツーリズム/サステイナブルツーリズム	1②～③		2		○								兼1			
ユニバーサルツーリズム	3②		2		○								兼1			
世界のトップアスリート	2③		2		○				1							
小計(24科目)	—	13	34	0		—		2	3	1	0	0	13			
発展科目群	ヘルスツーリズム領域	ヘルスツーリズム概論	3①		2		○			1					兼1	オムニバス・共同(一部)
		ウェルネスツーリズム論	3③		2		○				1					
		東洋医学概論	3①		2		○								兼1	
		健康と疾病の理解	3①		2		○								兼1	
		伝統医療論	3②		2		○			1						
		養生身体文化論	3②		2		○			1						
		食と健康	3③		2		○								兼1	
		東洋医学刺激療法	3③		2		○								兼1	
		機能回復	3④		2		○								兼1	
		薬膳	3④		2		○								兼1	
	小計(10科目)	—	0	20	0		—		1	1	0	0	0	6		
	地域経営(観光)領域	地域学入門	3①		2		○			1						
		地域まちづくり(講義)	3②		2		○			1						
		地域まちづくり(演習)	3④～休		2			○		1						
		地域コミュニティ創造支援論	3③		2		○			1						
		地域行政研究	3③		2		○			1						
		地域経済論	3④		2		○								兼1	
小計(6科目)	—	0	12	0		—		1	0	0	0	0	1			
ホテル・ブライダル領域	ホテル文化論	3①		2		○			1							
	ホテルビジネス論	3②		2		○			1							
	飲食産業論	3③		2		○			1							
	ブライダル	3③		2		○			1							
	リゾートビジネス	3④		2		○			1							
小計(5科目)	—	0	10	0		—		1	0	0	0	0	0			
エアライン領域	エアライン・マネジメント	3①		2		○			1							
	航空経営論	3③		2		○			1							
	交通産業論	3④		2		○			1							
	航空産業論	3①		2		○					1					
	国際交通論	3②		2		○					1					
	航空政策史	3③		2		○			1							
小計(6科目)	—	0	12	0		—		1	0	1	0	0	0			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
卒業研究	卒業研究	4通	4					○		5	2	2	0	0	0	
	小計 (1科目)	—	4	0	0			—		5	2	2	0	0	0	
合計 (113科目)		—	54	153	0			—		7	5	4	0	0		
学位又は称号		学士 (観光学)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
基礎教育科目40単位以上 (必修科目26単位、選択必修科目14単位以上)、専門教育科目60単位以上 (必修科目24単位、選択必修科目36単位以上)、上記2科目区分の中から自由に選択する単位20単位以上、卒業研究4単位 (必修科目4単位) を修得し、合計124単位以上修得すること。 なお、履修単位数の上限は年間48単位とする。								1 学年の学期区分				4期				
								1 学期の授業期間				7週				
								1 時限の授業時間				100分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(観光学部観光学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
基礎教育科目	導入教育科目群	初年次教育	1①	1				○										
	日本語表現	1②	1					○			1							
	情報リテラシー演習Ⅰ	1①	1					○								兼1	メディア	
	情報リテラシー演習Ⅱ	1②	1					○								兼1	メディア	
	小計(4科目)	—	4	0	0			—		0	1	0	0	0		1		
	外国語教育科目群	英語総合1	1①	2					○			1						メディア
		英語総合2	1②	2					○			1						メディア
		英語総合3	1③	2					○			1						メディア
		英語総合4	1④	2					○			1						メディア
		英語コミュニケーション1	1①	1						○		1		2				
		英語コミュニケーション2	1②	1						○		1		2				
		英語コミュニケーション3	1③	1						○		1		2				
		英語コミュニケーション4	1④	1						○		1		2				
		語学短期留学	1休			1						1						
	小計(9科目)	—	12	1	0			—		2	1	2	0	0		0		
	基礎イン턴シップ	基礎イン턴シップⅠ	1通	1								1	1					集中
		基礎イン턴シップⅡ	1通	1								1						集中
		小計(2科目)	—	2	0	0			—		1	1	1	0	0		0	
	教養教育科目群	我々の時代の理解A	1②		2				○									兼1
		我々の時代の理解B	1④		2				○									兼1
宮古文化論		1③		2				○									兼1	
宮古島の環境と風土A		1③		2				○									兼1	
宮古島の環境と風土B		1④		2				○									兼1	
空手・古武道		1①・②・③・④		1					○			1						
くいちゃー		1②		1					○								兼1	
小計(7科目)	—	0	12	0			—			1						5		
専門教育科目	社会学入門	1④	2					○									兼1	
	小計(1科目)	—	2	0	0			—		0	0	0	0	0		1		
	基幹科目群	観光産業入門	1③	2					○			1						集中
		観光企業研究Ⅰ	1④	2					○			1						共同
		人体の構造と機能	1①		2				○									兼1
		東洋医学入門	1②・③・④		2				○									兼1
		地域ボランティア	1通	1						○								兼1
エコツーリズム/サステイナブルツーリズム	1②～③		2				○									兼1		
小計(6科目)	—	5	6	0			—		0	2	0	0	0		4			
合計(29科目)			—	25	19	0		—		3	5	3	0	0				
学位又は称号		学士(観光学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉関係										
卒業要件及び履修方法								授業期間等										
基礎教育科目40単位以上(必修科目26単位、選択必修科目14単位以上)、専門教育科目60単位以上(必修科目24単位、選択必修科目36単位以上)、上記2科目区分の中から自由に選択する単位20単位以上、卒業研究4単位(必修科目4単位)を修得し、合計124単位以上修得すること。 なお、履修単位数の上限は年間48単位とする。								1学年の学期区分			4期							
								1学期の授業期間			7週							
								1時限の授業時間			100分							

教 育 課 程 等 の 概 要																
(観光学部観光学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
外国語 教育 科目 群	English for Tourism 1	2①	2			○									メディア	
	English for Tourism 2	2②	2			○									メディア	
	英語演習1	2①		1				○								
	英語演習2	2②		1				○								
	英語演習3	2③		1				○								
	英語演習4	2④		1				○								
	英語演習5	3①		1				○							メディア	
	英語演習6	3②		1				○							メディア	
	中国語1	2③		1			○								兼1	
	中国語2	2④		1			○								兼1	
	中期留学	2・3休		4					○							集中
小計(11科目)	—		4	12	0			—		1	1	0	0	0	1	
キャリア 教育 科目 群	中期インターンシップ	2・3休	4					○								共同・集中
	観光におけるキャリア	2①		2			○									
	観光分野での起業	2④		2			○									
	小計(3科目)	—		4	4	0			—		3	2	1	0	0	0
教養 教育 科目 群	比較文化論	2②		2			○								兼1	メディア
	ことばと文化・社会	2②		2			○								兼1	
	日本文学	2②		2			○								兼1	
	西洋文学	2③		2			○								兼1	
	日本・東洋思想	2④		2			○					1				
	西洋思想	2①		2			○					1				
	宗教学	2①		2			○				1					
	日本史	2②		2			○								兼1	
	日本文化史	2④		2			○								兼1	
	日本食文化	2①		2			○								兼1	メディア
	文化人類学	2③		2			○				1					
	心理学	2①		2			○								兼1	メディア
	経営学基礎A	2②		2			○					1				
	経営学基礎B	2④		2			○						1			
	国際政治学入門	2③		2			○				1					
	国際経済学入門	2④		2			○						1			
小計(16科目)	—		0	32	0			—		3	1	2	0	0	4	
基盤 科目 群	社会調査法Ⅰ	2②	2				○									
	社会調査法Ⅱ	2③	2				○								兼1	
	観光学概論	2①	2				○								兼1	
	観光社会学	2②	2				○								兼1	
	データサイエンスⅠ	2①	1						○						兼1	メディア
	データサイエンスⅡ	2②		1					○						兼1	
	データサイエンスⅢ	2③		1					○						兼1	
	AI基礎	2④		2			○								兼1	メディア
小計(8科目)	—		9	4	0			—		1	0	0	0	0	3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
専門教育科目	基幹科目群	ツーリズム論	2①	2			○				1								
		観光企業研究Ⅱ	2③～④		2			○											兼1
		観光地理学A	2・3②		2			○											兼1
		観光地理学B	2・3④		2			○											兼1
		観光と食	2・3③		2			○											兼1
		大使館観光局ゲスト講義	3①～②		2			○			1								
		リスクマネジメント	2・3③		2			○											兼1
		広報・マスコミ対応	2・3④		2			○				2							
		観光メディア論	2・3②		2			○				1							
		観光関連法規	2・3④		2			○					1						
		公衆衛生学	2②	2				○											兼1
		介護の基本	2③	2				○	*										兼1
		メディカルツーリズム論	2・3④		2			○											兼1
		観光医療Ⅰ	3①	2				○	*										兼1
		観光医療Ⅱ	3②		2			○											兼1
		ホスピタリティ	2・3②		2			○			1								兼1
		ユニバーサルツーリズム	3②		2			○											兼1
		世界のトップアスリート	2③		2			○				1							兼1
			小計(18科目)	—	8	28	0		—		2	3	1	0	0				9
専門教育科目	ヘルスツーリズム領域	ヘルスツーリズム概論	3①		2		○			1								兼1	オムニバス・共同(一部)
		ウェルネスツーリズム論	3③		2		○				1							兼1	
		東洋医学概論	3①		2		○											兼1	
		健康と疾病の理解	3①		2		○											兼1	
		伝統医療論	3②		2		○			1									
		養生身体文化論	3②		2		○			1									
		食と健康	3③		2		○												兼1
		東洋医学刺激療法	3③		2		○												兼1
		機能回復	3④		2		○												兼1
		薬膳	3④		2		○												兼1
			小計(10科目)	—	0	20	0		—		1	1	0	0	0				6
発展科目群	地域経営(観光)領域	地域学入門	3①		2		○			1									
		地域まちづくり(講義)	3②		2		○			1									
		地域まちづくり(演習)	3④～休		2			○			1								
		地域コミュニティ創造支援論	3③		2		○			1									
		地域行政研究	3③		2		○			1									
		地域経済論	3④		2		○												兼1
			小計(6科目)	—	0	12	0		—		0	0	0	0	0				2
発展科目群	ホテル・リゾート・フライダル領域	ホテル文化論	3①		2		○			1									
		ホテルビジネス論	3②		2		○			1									
		飲食産業論	3③		2		○				1								
		プライダル	3③		2		○				1								
		リゾートビジネス	3④		2		○				1								
			小計(5科目)	—	0	10	0		—		1	0	0	0	0				0
発展科目群	エアライン領域	エアライン・マネジメント	3①		2		○			1									
		航空経営論	3③		2		○			1									
		交通産業論	3④		2		○				1								
		航空産業論	3①		2		○					1							
		国際交通論	3②		2		○						1						
		航空政策史	3③		2		○				1								
			小計(6科目)	—	0	12	0		—		1	0	1	0	0				0
卒業研究	卒業研究	4通	4				○		5	2	2	0	0				0		
	小計(1科目)	—	4	0	0		—		5	2	2	0	0				0		
合計(84科目)		—	29	134	0		—		6	4	2	0	0						
学位又は称号		学士(観光学)		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉関係											
卒業要件及び履修方法							授業期間等												
基礎教育科目40単位以上(必修科目26単位、選択必修科目14単位以上)、専門教育科目60単位以上(必修科目24単位、選択必修科目36単位以上)、上記2科目区分の中から自由に選択する単位20単位以上、卒業研究4単位(必修科目4単位)を修得し、合計124単位以上修得すること。 なお、履修単位数の上限は年間48単位とする。							1学年の学期区分		4期										
							1学期の授業期間		7週										
							1時限の授業時間		100分										

授 業 科 目 の 概 要				
(観光学部観光学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎教育科目	導入教育科目群	初年次教育	ノートの取り方からレポートの作成、情報の集め方、図書館の利用法、リサーチの仕方、独自の着眼点を持ったうえで問題提起する方法など、大学で学ぶために必要となるアカデミックリテラシーの習得を目的とする。授業は各小グループを中心とし、教師と学生の距離を縮めたアクティブラーニング形式を用いる。グループワークを通じて、集団行動における自己の役割や自分の意志をいかにはっきりと他者に伝えていくかを学習する。高校までの受動的学習から、「思考を整理する」「書く」「話す」「議論する」「発表する」「他者の意見を検証する」といった能動的な学習法を一人一人に体得させる。	
		日本語表現	大学での学修に不可欠となる的確な日本語表現、文章力を指導していく。まずは、参考文献のリサーチの仕方、活用法を学んだうえで、大学生としてまとめるレポートの書き方を体得する。学術的な文章の書き方、論理的ロジックを覚えた次のステップとして、自分の意思をいかなる文章で相手に伝えるか、クラスメイトの人物像をどのように描くか、起承転結、情景描写など徹底的に文章表現を学ぶ。全員の4本のレポート(学期末試験を除く)を添削し、レベルアップを計る。自らの発する言葉の意味を考え、プレゼンテーションやスピーチ能力にも磨きをかける。説得力のある日本語の使い方を意識し、一人一人が他者とのコミュニケーションを円滑にできる術を身に付ける。	
		情報リテラシー演習Ⅰ	本授業では、大学での学びや社会活動に必要な不可欠な、情報リテラシーとコミュニケーションスキルの基本について講義学習、チェックテスト、課題演習を通して習得する。インターネットの仕組みや情報サービスの特徴を理解して、それらを的確に活用しながら情報の収集、整理を行い、メーラーやSNS、文章作成ソフトを用いて発信する方法を学び、他者とのコミュニケーションや問題を解決する力を養う。	
		情報リテラシー演習Ⅱ	本授業では、これからの社会や産業、仕事のあり方を見据え、社会の中で活躍するために必要不可欠な情報リテラシーとコミュニケーションスキルの基本について講義学習、チェックテスト、課題演習を通して習得する。データが持つ重要性、可能性を理解し、適切なデータ収集、表計算ソフトでの分析の仕方、HTMLやプレゼンテーションソフトを用いた的確な情報発信の方法を学び、他者とのコミュニケーションや問題を解決する力を養う。	
外国語教育科目群		英語総合1	ReadingとWritingを中心とした授業です。テキストの予習と講義受講、その後の演習の3つの活動によって確実に知識を増やし、技能を高めていきます。英文の正しい読み方に焦点をあてた授業と定型構文を用いた英語表現に焦点をあてた授業を進めていきます。高校までに学習した内容の復習から始めて、実践的な内容へと進んでいきます。授業の予習としてテキストの問題演習と、オンデマンド講義の受講、復習としてリフレクションシートの記入とチェックテスト受験が必須になっています。受講生は積極的な授業への参加が求められます。「英語コミュニケーション1」と合わせて観光分野での活用を前提とした実践性の高い英語力の育成を目指していきます。	
		英語総合2	ReadingとWritingを中心とした授業です。テキストの予習と講義受講、その後の演習の3つの活動によって確実に知識を増やしていきます。英語総合1での学習内容を基礎として、英語で書かれた文章を読むスキルや知識を学びます。また、読み取った情報を英文でまとめたり、自分の意見を表現したりするスキルや技能を学びます。授業の予習としてテキストの問題演習と、オンデマンド講義の受講、復習としてリフレクションシートの記入とチェックテスト受験が必須になっています。受講生は、積極的な授業への参加が求められます。「英語コミュニケーション2」と合わせて観光分野での活用を前提とした実践性の高い英語力の育成を目指していきます。	
		英語総合3	ReadingとWritingを中心とした授業です。テキストの予習と講義受講、その後の演習の3つの活動によって確実に知識を増やしていきます。英語総合1と英語総合2での学習内容を基礎として、観光産業従事者として必要になる分野を題材とした英文を読んでいます。また授業の予習としてテキストの問題演習と、オンデマンド講義の受講、復習としてリフレクションシートの記入とチェックテスト受験が必須になっています。授業のまとめとして英文の記事を要約してプレゼンテーション動画を作成してもらいます。受講生は積極的な授業への参加が求められます。「英語コミュニケーション3」と合わせて観光分野での活用を前提とした実践性の高い英語力の育成を目指していきます。授業で扱う文章の題材は歴史・地理・政治経済・環境・国際関係に関するものとします。	
		英語総合4	ReadingとWritingを中心とした授業です。テキストの予習と講義受講、その後の演習の3つの活動によって確実に知識を増やしていきます。英語総合1・英語総合2・英語総合3での学習内容を基礎として、観光産業従事者として必要になる分野を題材とした英文を読んでいます。また授業の予習としてテキストの問題演習と、オンデマンド講義の受講、復習としてリフレクションシートの記入とチェックテスト受験が必須になっています。授業のまとめとして「観光プランの紹介」を英語で行い、最終評価を行います。受講生は積極的な授業への参加が求められます。「英語コミュニケーション4」と合わせて観光分野での活用を前提とした実践性の高い英語力の育成を目指していきます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーション1	ListeningとSpeakingを中心とした授業です。基本的な英語表現による音声によるコミュニケーションスキルを習得します。英語と日本語の違いの理解や英語によるコミュニケーションにおける言語的な側面に加えて文化的な側面についても学びを深めていきます。観光産業従事者としての英語スキルだけでなく、教養を備えた社会人としての英語スキル獲得を目指します。受講生は積極的な授業への参加が求められます。「英語総合1」と合わせて観光分野での活用を前提とした実践性の高い英語力の育成を目指していきます。	
	英語コミュニケーション2	ListeningとSpeakingを中心とした授業です。基本的な英語表現による音声によるコミュニケーションスキルを習得します。英語と日本語の違いの理解や英語によるコミュニケーションにおける言語的な側面に加えて文化的な側面についても学びを深めていきます。観光産業従事者としての英語スキルだけでなく、教養を備えた社会人としての英語スキル獲得を目指します。受講生は積極的な授業への参加が求められます。「英語総合2」と合わせて観光分野での活用を前提とした実践性の高い英語力の育成を目指していきます。	
	英語コミュニケーション3	ListeningとSpeakingを中心とした授業です。英語コミュニケーション1・2での学習内容をさらに発展させて、英語による音声コミュニケーションスキルを習得します。カリキュラムの前半ではListeningに焦点をあてて授業を進めます。観光産業従事者として遭遇する場面における聴解力やTOEIC等の試験問題への対応などを学習していきます。後半ではプレゼンテーションセッションに向けた準備を通して、「人に伝える英語」のスキルをさらに向上させていきます。受講生は積極的な授業への参加が求められます。「英語総合3」と合わせて観光分野での活用を前提とした実践性の高い英語力の育成を目指していきます。	
	英語コミュニケーション4	ListeningとSpeakingを中心とした授業です。英語コミュニケーション1～3での学習内容をさらに発展させて、英語による音声コミュニケーションスキルを習得します。カリキュラムの前半ではListeningに焦点をあてて授業を進めます。観光産業従事者として遭遇する場面における聴解力やTOEIC等の試験問題への対応などを学習していきます。後半ではプレゼンテーションセッションに向けた準備を通して、「人に伝える英語」のスキルをさらに向上させていきます。受講生は積極的な授業への参加が求められます。「英語総合4」と合わせて観光分野での活用を前提とした実践性の高い英語力の育成を目指していきます。	
	English for Tourism 1	観光分野または周辺領域で使われている英語を題材として、Reading, Writing, Listening, Speakingの力の向上を目指していきます。読解教材やワークシートを用いて体験的に観光分野での英語を学べるように授業を進めていきます。また、授業内においてプロジェクトを立ち上げ、観光に関する題材についてプレゼンテーションをする機会を設けます。1年次までの学習を土台により実践的な英語力を習得するため、授業前の予習、授業参加、小テスト、授業の復習をしっかりと進めてください。	
	English for Tourism 2	観光分野または周辺領域で使われている英語を題材として、Reading, Writing, Listening, Speakingの力の向上を目指していきます。読解教材やワークシートを用いて体験的に観光分野での英語を学べるように授業を進めていきます。また、授業内においてプロジェクトを立ち上げ、観光に関する題材についてプレゼンテーションをする機会を設けます。1年次までの学習を土台により実践的な英語力を習得するため、授業前の予習、授業参加、小テスト、授業の復習をしっかりと進めてください。	
	英語演習1	1年次までの学習を基盤として、実践的な英語力の習得を目指します。この授業では特に民間英語検定試験の対策に焦点をあてていきます。具体的にはTOEIC(L/R), 実用英語技能検定試験を対象として、出題傾向の把握、Test-taking strategiesの学習などを行っていきます。また、試験対策を通して、観光産業で働くものとして必要な実践的英語力の向上を目指します。授業では、問題演習、解説、振り返りを基本的な流れとします。復習に多くの時間をさいてください。	
	英語演習2	英語演習1での学習内容を踏まえ、実践的な英語力の習得を目指します。この授業では特に民間英語検定試験の対策に焦点をあてていきます。具体的にはTOEIC(L/R), 実用英語技能検定試験を対象として、出題傾向の把握、Test-taking strategiesの学習などを行っていきます。また、試験対策を通して、観光産業で働くものとして必要な実践的英語力の向上を目指します。授業では、問題演習、解説、振り返りを基本的な流れとします。復習に多くの時間をさいてください。	
	英語演習3	英語演習2までの学習内容を踏まえ、実践的な英語力の習得を目指します。この授業では特に民間英語検定試験の対策に焦点をあてていきます。具体的にはTOEIC(L/R), 実用英語技能検定試験を対象として、出題傾向の把握、Test-taking strategiesの学習などを行っていきます。また、試験対策を通して、観光産業で働くものとして必要な実践的英語力の向上を目指します。授業では、問題演習、解説、振り返りを基本的な流れとします。復習に多くの時間をさいてください。	
	英語演習4	英語演習3までの学習内容を踏まえ、実践的な英語力の習得を目指します。この授業では特に民間英語検定試験の対策に焦点をあてていきます。具体的にはTOEIC(L/R), 実用英語技能検定試験を対象として、出題傾向の把握、Test-taking strategiesの学習などを行っていきます。また、試験対策を通して、観光産業で働くものとして必要な実践的英語力の向上を目指します。授業では、問題演習、解説、振り返りを基本的な流れとします。復習に多くの時間をさいてください。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語演習5	2年次までの学習を基盤として、実践的な英語力の習得を目指します。この授業では特に民間英語検定試験の対策に焦点をあてていきます。具体的にはTOEIC(L/R),実用英語技能検定試験を対象として、出題傾向の把握, Test-taking strategiesの学習などを行っていきます。また、試験対策を通して、観光産業で働くものとして必要な実践的英語力の向上を目指します。授業では、問題演習、解説、振り返りを基本的な流れとします。復習に多くの時間をさいてください。	
	英語演習6	これまでの学習を基盤として、実践的な英語力の習得を目指します。この授業では特に民間英語検定試験の対策に焦点をあてていきます。具体的にはTOEIC(L/R),実用英語技能検定試験を対象として、出題傾向の把握, Test-taking strategiesの学習などを行っていきます。また、試験対策を通して、観光産業で働くものとして必要な実践的英語力の向上を目指します。授業では、問題演習、解説、振り返りを基本的な流れとします。復習に多くの時間をさいてください。	
	中国語1	本授業は、中国語の語彙と文法の習得に重点を置き、リーディングとライティングのスキルを身につける。そのために、まず中国語の基礎である発音（ピンイン及び声調）を学ぶ。テキスト各課の本文を講読し（各課は中国へ行った時の様々な出来事をやさしく書いた本文であるため理解しやすい）、新出単語と文法を学ぶ。きちんと理解してから課題として各課の「チャレンジ（豊富な練習問題）」を解く。各課終了ごとに、単語の小テストを実施する。また、到達度を確認するため中間テスト及び期末試験を行う。本授業を通じて、初級レベルの中国語文章を読めることと作れることを到達目標とする。	
	中国語2	本授業では、「中国語1」と連動させ、単語と文法項目はほぼ同じだが、会話に重点を置くことによって学生の理解度をより深める。発音（ピンイン及び声調）を定着させ、ペアワークという形で会話練習を行う。内容は「中国に行くとよく出会う場面をテーマにした会話」であるため初級会話に必要な基本的な表現を身につける。また、各課のリスニング問題は課題として取り組む。本授業を通じて、初級レベルの中国語会話ができることを到達目標とする。	
	語学短期留学	海外と関連する観光に従事するために用意した3週間の短期留学プログラムです。留学先は米国（サンディエゴ大学）またはオーストラリア（グリフィス大学）を予定します。すでに英語の必修授業を受講済みにして、本学が留学可能と判定した学生を対象とします。次の到達目標を設定します。 （1）基礎的レベルにとどまらない英語コミュニケーション力の向上を図る。 （2）留学先の文化について得る広く深い知識と体験についてプレゼンテーションができる。 （3）TOEICについて500点以上の成績を出せる。	
	中期留学	海外と関連する観光に従事するために用意した4週間の留学プログラムです。留学先はルクセンブルクのビジネススクール、Brookins Business Institute（BBI）を予定します。すでに英語の必修授業を受講済みにして、本学が中期留学可能と判定した学生を対象とします。次の到達目標を設定します。 （1）幅広い話題をカバーし、観光分野について実務級の英語コミュニケーション力を発揮できる。 （2）ヨーロッパについて知識と体験に基づくプレゼンテーションができる。 （3）TOEIC700点以上の成績を出せる。	
キャリア教育科目群	基礎インターンシップⅠ	1年次キャンパスのある宮古島において入学後の早い段階で、観光（業界）についての具体的な印象を形成することによって学習意欲を喚起することを目的とする。そして、事前学習と事後の振り返り学習が重要であるが、具体的には本授業では、宮古島市役所・宮古島市観光協会にて、行政や観光協会の組織のあり方やその取り組み、日本トランスオーシャン航空、みやこ下地島空港ターミナルビル、沖縄ワタベウディング株式会社、島の駅みやこ、など観光関連産業のビジネス組織のあり方などについて学ぶ。本授業では、インターンシップに参加するのに必要な基礎力（自分自身の考えを表現する力や論理にしたがい説明する力）を養い、自己理解や職に対する理解を求めるために、インターンシップに参加する。	
	基礎インターンシップⅡ	1年次キャンパスのある宮古島において入学後の早い段階で、観光（業界）についての具体的な印象を形成することによって学習意欲を喚起することを目的とする。そして、事前学習と事後の振り返り学習が重要であるが、具体的にはⅡでは、ヒルトン沖縄宮古島リゾート、シギラセブンマイルズリゾート、などホテル業において、ビジネス組織のあり方のみならず、まさに接客・接客マナーなどについて学ぶ。本授業では、インターンシップに参加するのに必要な基礎力（自分自身の考えを表現する力や論理にしたがい説明する力）を養い、自己理解や職に対する理解を深めるために、インターンシップに参加する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中期インターンシップ	近畿圏内を中心に「エアライン」、「地域経営」、「ヘルスツーリズム」、「ホテル・ブライダル」関連企業において、表現力や顧客への対応力など具体的な職場で求められる能力などに関して理解することをめざす。具体的には、ザ・リッツ・カールトン大阪、城崎温泉旅館協同組合加盟旅館、六甲山観光株式会社、あまがさき観光局、夢ツーリストきたみ、などにおいて、就職後の適応力を高めることを目的に多角的に学びとる力を養成する。	
	観光におけるキャリア	国が成長戦略の柱として進める観光分野における人材育成・活用促進の施策について、経営人材、中核人材、即戦力となる実践的な人材のそれぞれについて基本的な考え方を理解するとともに、理論的背景について修得する。他方、観光産業事業者が経営戦略や事業計画で標榜するべき人材像について把握したうえで、職場で求められる能力について受講生が大学生活をつうじていかに接近できるかを検討する。また、観光産業における人材の多様性を強みとする可能性や個人のキャリアパスについて理解するとともに、「人」が最大限能力発揮するための産業訓練について、現状と課題の理解に努める。研究成果をプレゼンテーションにて発表する。	
	観光分野での起業	導入として、観光経営に関する理論について理解するとともに、観光経営を取り巻く環境について把握することから始める。そのうえで、旅行業、宿泊業、運輸業、観光施設業経営の現状について理解し、課題と展望を把握したうえで、各事業におけるレガシーと新潮流についてケーススタディを通じて比較研究する。事業機会の特性や事業機会の評価方法についての基本的な考え方を修得したうえで、受講生の関心の強い業態におけるビジネスモデルを各自で考案、作成し、その研究成果としてプレゼンテーションを実施する。	
教養教育科目群	我々の時代の理解A	世界各地域の紛争に本人や家族・知人が巻き込まれている外国人と日々接することが日本でも珍しくなくなった。観光業でスタッフが接遇する旅行者の中には、紛争当事国の国民・住民は少なくない。観光業者が旅行者を引率して出かける先の国家や地域は現に紛争の渦中にある場合も想定される。現代に生きる以上、こうした世界情勢の原因・歴史・現状に無知であることは許されない。観光業のスタッフとして働くのであれば尚更である。具体的には、①20世紀後半のグローバル化の原動力であったアメリカが全世界にどのような暴力を行使し、格差・貧困を生み出したか、②米ソ冷戦を起源とするシリア内戦やそれに先立つイラク、アフガン、パレスチナなど中東地域の内戦と、それを機に世界政治の中心課題となるまでに拡大した現代の難民問題、③チュニジア、エジプト、アルジェリアなどの民主化運動の悲劇、南スーダン、リビア、マリ、コンゴ、中央アメリカなど、アフリカ諸国内戦における当事国内部の対立構造と外部勢力との関係、④中国の強大化が生んだ経済支援を手段とする発展途上国支配や、国内少数民族および香港に対する暴政、⑤ミャンマーの軍事クーデタが生み出した自国民虐殺と少数民族問題、⑥暴動と鎮圧が繰り返されてきたロシア及び旧ソ連圏の少数民族問題、⑦ロシアのウクライナ侵攻が生んだ悲惨な事態と、それを通じて明らかになった歴史的経緯にまつわる深い怨恨の累積などをとりあげ、その歴史的経緯と現状、背景にある超大国間の、世界戦争の危険を孕んだ緊張状態を概観し、日本に生きる我々もそれらと無縁ではありえない事態を学ばせたい。	
	我々の時代の理解B	われわれの生きている世界を読み解く上で、絶対に見過ごしてはならないのが、科学技術の急速な「発展」の負の遺産である。例えば地球温暖化が生んだ気候変動による海面上昇（陸地の水没）・洪水・雪崩の激増、森林伐採などによる生態系破壊、医療・農業に使われる生物工学（バイオテクノロジー）が生み出した遺伝子異常による人間および地球上の全生命の危機である。これらの問題がこの世界の最も深刻なテーマだということは理解されはじめたが、まだ解決の方途も見いだせていない。「われわれの時代」の理解には、この事態と向き合うことが不可欠である。具体的には、①地球温暖化の帰結としての気候変動や海面上昇（陸地の水没）、②大気汚染、海洋汚染などによる森林喪失、さまざまな海洋資源の喪失、土壌流失、巨大な山火事の発生、生物多様性の非可逆的喪失、③核兵器・原子力発電など核科学技術による地球上の生命の存亡の危機、④遺伝子操作を中心とする技術の高度化が、次世代以降の人類に残す解決不能な倫理的負の遺産、⑤新型コロナウイルス感染症の蔓延を通じて明らかになった、感染症予防と治療に関して提供される技術（医療サービス）の甚だしい格差と、パンデミック以後の世界の変化への危機、⑥富と科学技術の先進国への一極集中による、途上国・低開発国の国民が受けられる医療サービスの極端な劣悪さや食糧危機の惨状、などを取り上げる。	
	比較文化論	講義と受講者による発表で構成する。授業は「地域編」と「時事問題編」の二部構成とする。適宜、あらかじめ指名した発表担当（個人またはグループ）に、指定する地域または国についての政治・経済・文化の重要な特徴を発表し質疑応答に対応願う。毎回レポートを提出し、授業の理解を徹底する。アウトバウンド（海外観光の企画と実施）とインバウンド（海外からの観光客の誘致企画と実施）の両面への適切な対応のためには、対象とする地域と国の文化についての深い理解が必要であり、単にビジネス目的にとどまらず、自らの世界理解を中心とする教養を高めることにより、広く世界に通じるコミュニケーションの基礎養成を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ことばと文化・社会	文化とは何か、この解釈理解にもいろいろなことが考えられる。本授業では、文化を、ある人間集団における世代から世代へと学習により伝承されていく、特有の行動および思考様式にもとづく固有の構図にとらえる。つまり文化とは、人間の行動を支配するさまざまな原理のなかから本来的かつ生得的なもの以外の、いわゆる伝承性の強いまた社会からある種の強制力を有する(慣習)のものであると考えられる。そして、人間のことばにも、このような文化の定義があてはまるのである。たとえば、その一つとして、方言があげられるが、これは日本に限定されるものではない。すなわち、このことはさらにことばと社会に関係することでもある。それは、それぞれ異なることばを用いる別の社会に属する人にとっては、はたして同様の体験や認知さらには同様の世界観をもつことができるのであろうかという問題である。次にことばがある社会において用いられている以上、その社会の構造とその社会のことばのありようとの間にどのような関係性がみられるのかという問題がある。本授業においては、これらのことばと文化・社会における問題を深く考えていくことを目的とする。さらには、これらの具体的な問題について、学生と討議検討する。本授業を通じてまず、ことばの構造と文化の構造について考えることができる。そして、ものごとことばとの関係性とその基準について考えることができる。次に、ことばの意味やことばの定義について検討し、ことばにおいてその事実の意味をあたえることについて深く考えることができる。さらには、そのことばが用いられる社会における行動様式について、具体例をあげて検討することができる。	
	日本文学	古代から現代に至る日本文学の歴史を概観し、あわせて主要な文学作品の一部を読解することを通して、日本文学の特徴および日本人の感性とは何かを考えていく。具体的には、神代・中古・中世・近世・近代という区分に従って文学作品のテキストを取り上げ、丁寧に読み解いていく。また、現代の文学作品についても取り上げ、現代社会との関係性について考えたい。	
	西洋文学	世界史の授業などでタイトルを聞いたことはあるが内容について詳しく知らないような、西洋文学の古典的な名作を取り上げ、一部分とはなるが読み解くことを通して、作品世界への理解を深めていく。具体的には古代ギリシア・ローマ、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、そしてアメリカの文学作品を取り上げる。	
	日本・東洋思想	東洋思想・日本思想を概観する。古代インドの思想と宗教、ブッダの生涯と思想、仏教思想の展開、ムハンマドの生涯と思想、イスラームの展開、中国の思想(儒教と諸子百家)、『古事記』・『日本書紀』の世界、日本の仏教、近世日本の思想、近代日本の哲学者について、テキストの読解を通して学び、最終的には西洋思想との共通点・相違点について検討し、「東洋とは何か?」、「日本とは何か?」をともに考えてみたい。	
	西洋思想	古代ギリシアから現代に至る西洋思想、具体的には、ソクラテス・プラトン・アリストテレスを中心とする古代ギリシアの哲学、イエスの生涯と思想、アウグスティヌス、中世のスコラ哲学、近代哲学の祖・デカルト、ドイツ観念論、現象学と実存主義、マルクス主義、現代思想を、テキストを読みながら概観する。そして、西洋思想とは何かについて考える。	
	宗教学	宗教について考えることは、なかなか難しい。ひとつのとらえ方に、宗教とは暖かい血の通った現象であり、人間の心の奥底に秘められているものであるということがある。言い換えれば、宗教はまさに人間の問題であり、人間の生活にとってどのような意味をもつのかも考えなければならない。本講義においては、この宗教は如何にあるべきか特定の信仰の見地より主観的にとらえるのではなく、客観的かつ価値中立的に、ひとつの文化の現象として考え、その基礎的な知識を得ることを目的とする。しかしながら、神の存在をはじめたそのことについてどのような思想を有するかということも、そのことがいわゆる人間のいとなみである以上、可能な限りひとつの事例研究として検討の対象としたい。また、日本における宗教とは何か、について学生諸氏と討議検討する。	
	日本史	本授業では、時代を追った大流を掴み、社会・経済の発展が内政・外交方針の転換に大きな影響を与え、その時代を反映した文化が創造されてきたことを理解する。 川の流れを静止した一点として見つめることができないうように、歴史も一つの事項のみを点で捉えることはできないことを認識し、各時代の特徴を捉えた上で日本という国がどのような発展を経たかを検証するなかで、歴史を「覚える対象」から「考える対象」として再認識するとともに、論理的思考能力を身に付ける。 歴史は一つの事項のみを点で捉えることはできない。各時代の特徴を捉えた上で日本という国がどのような発展を遂げてきたかを検証する。 本授業を通じて、歴史を「覚える対象」から「考える対象」として再認識するとともに、論理的思考能力を身に付けさせることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本文化史	<p>「日本史」で歴史の大流を掴み、社会・経済の発展が内政・外交方針の転換に大きな影響を与え、その時代を反映した文化が創造されてきたことを理解し、その変遷は外来文化の吸収や文化の担い手の変化に拠るところが大きいことを認識する。</p> <p>講義と共にフィールドワークを行い、地理的感覚も養うことにより、日本文化の原点ともいえる飛鳥、斑鳩、奈良や京都の文化遺産に精通しうること、観光業に携わる人材としての歴史的教養に基づいたコミュニケーション能力を養成する。</p> <p>文化はその時代を反映する。日本史における各時代の政治・外交・社会と経済を捉えた上で日本という国がどのような文化を創出してきたかを検証する。</p> <p>本授業を通じて、文化史を、建築・美術作品・書物などを「覚える」という誤った認識から「時代背景をもとに諸遺産の変遷過程を考える」対象として再認識させるとともに、歴史的教養に基づいたコミュニケーション能力を養う。</p>	
	日本食文化	<p>本授業では、日本食文化について総合的に学び理解することを目指す。先ず、今日の日本食文化の原型が確立した江戸時代を起点に、その後の歴史の変遷（特に西洋料理の影響）について学び、その後今日の和食文化の特徴を「もてなし」「食材」「栄養」「調理」の観点から分析する。また、観光学部の授業であることを意識し、各地区の郷土料理についても学ぶ。メディアを活用する授業の特性を生かし、映像資料を教材とする他、和食調理人との対談などを盛り込む。</p>	
	文化人類学	<p>本科目では、文化人類学の知的伝統に親しむことで、自分の属する社会の中で当たり前とされている様々な考え方を、少し距離を置いて見つめ直し、「差別」や「偏見」に関する知識・理解を得て、「相対主義的」思考を習得する。具体的には、多様な文化の存在を知り、多様な文化を「偏りなく理解する理論・方法論」を学ぶことで、それらを尊重する思考方法（差別や偏見について常に内省することができる思考方法）の涵養を語る。加えて、これらの学習を踏まえ、「日本文化」「日本人」とはいかなる存在かについて批判的に検討すると共に、ポストコロナにおける「文化の活用のあり方」について自分の考えを述べ、討議する。</p>	
	心理学	<p>本授業では、心理学とはどのような学問なのか、見えない「心」をどのように調べるのかなど、基本的なことから学んでゆく。さらに、人の心理学的理解のために、心理学の主要な理論を日常生活で経験する様々な事象と関連づけて紹介・考察し、心の仕組みや働き、その表出としての行動について科学的に学びを深めてゆく。</p> <p>本授業を通じて、学生が、心理学の観点から人の様々な心理や行動について考察し、高いコミュニケーション能力をもってよりよい社会生活を送れるようになることを目標とする。</p>	
	経営学基礎A	<p>経営学の基本的項目について知識を修得するとともに、それを、グループワークを通して活用することで理解を深める。本授業では、経営学の組織論的側面に焦点を当てる。企業とはどのようなものか、といった問いかけからはじまり、人的資源管理の考え方・あり方、リーダーシップ論、そして現代的課題への取り組みといったテーマへと進んでいく。グローバル化が進む中、多様性にどのように対処していくべきか、あるいは最近特に注目されているSDGsとの関わりにおいて、企業をはじめとする組織経営をどのように変革していかなければならないのか、といったテーマについて考えていく。</p> <p>本授業を通じて、経営学とはどのような学問であるかを把握し、その中の主要なテーマについて理解し、今後の学習目標を定めるための視点を養成する。</p>	
	経営学基礎B	<p>経営学の基本的項目について知識を修得するとともに、それを、グループワークを通して活用することで理解を深める。本授業では、「経営学基礎A」よりも具体的な経営活動に焦点を当て、学んでいく。簿記や管理会計のように、企業が社員にその修得を強く求めている知識・技能や、マーケティングの手法、広告戦略などについて学びつつ、実践を重ねていく。また、SDGsとの関係が深いSCM（サプライチェーンマネジメント）などについても学習し、最終的にそれらを俯瞰する形で経営戦略について考える。</p> <p>本授業を通じて、経営学とはどのような学問であるかを把握し、その中の主要なテーマについて理解し、今後の学習目標を定めるための視点を養成する。</p>	
	国際政治学入門	<p>講義と受講生参加のシミュレーションを混合する二部構成とする。</p> <p>シミュレーションでは、受講生を数グループに編成し、ロールプレイングを通じて、テーマとして取り上げる国際紛争のあり方を疑似体験として学ぶ。グローバル化の進展に伴う国際社会の変化を理解し、その過去・現在を理解し、未来を考えるために国際政治を中心に歴史と現状を分析し理解する眼を要請する授業とし、次の到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) メディアに取り上げられる国際時事を正確に理解できる (2) 国際関係の基礎概念を理解し実例に適用することができる (3) 海外と関係する事業を企画する際にリスクとチャンスを適切に判定できる 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際経済学入門	<p>国際観光はもちろん、今日では日本国内を対象にした観光を研究する上でもインバウンド需要の取込みは欠かすことができず、したがって国際経済の知識は避けて通れないものとなっている。このような国際経済の知識を、本授業では4部構成で学んでいく。</p> <p>まず第1部（第1回から第4回）では、国際収支統計を通じてわが国の今の強みと弱みを把握する。次に第2部（第5回から第8回）は、「カネ」の国際移動として外国為替の仕組みや為替レートが変動する要因を学習する。さらに第3部（第9回から第12回）は、「モノ」の国際移動として自由貿易協定の締結が進む要因を理解する。最後の第4部（第13回と第14回）は、「ヒト」の国際移動として移民や日本で進む技能実習制度、特定技能制度とその課題を学ぶ。</p>	
	宮古文化論	<p>物事の本質・真理は外にはなく、自己自身の内に求めることが必要とされ、価値あるものは自分の身近な所にある。それには「気付く」ことが大切で、気付きによって考えが深まり、行動が変わり、その人の生き方が変わる。つまり、人間は気付くことによって内面的に成長していけることも併せて示唆している。</p> <p>このような理念のもとに本授業を「観光に活かす地域連携の具体的展開」と位置づけ「宮古文化論」として授業を実践する。</p> <p>宮古島での1年間の学習の機会を最大限に活かす為に「地域連携型」とし、観光の骨子となる「気候」「人々の暮らし」「継承された伝統文化」「島の名所旧跡」等について座学・現場視察・インタビューなどを通して「足元の泉」について気づかせ、学生一人ひとりの成長の糧とする。</p>	
	宮古島の環境と風土A	<p>宮古島の地域区分（省エネルギー基準）は8地域、蒸暑地域（奄美列島から琉球列島）となっている。国土面積・人口からすると小規模ではあるが、東南アジアに連なる機構特性を持っている。</p> <p>本授業では、宮古島の気象、特に台風、またそれを乗り越えてきた人々の知恵を建築家としての立場からの講義、フィールドワークなどをはじめとし、講師が設計した住宅を教材として環境、風土についても知る。</p>	
	宮古島の環境と風土B	<p>今現在、私たちが目にしている宮古の美しい海や島の景観は、はじめからそこにあるのではなく、その土地に暮らす人々が、絶え間ない働きかけによって守り維持してきた結果です。島の自然と暮らしに寄り添えるような観光の姿を考えていくために、私たちに必要なことは徹底的に地域に学ぶという姿勢です。座学だけでなく、可能な限り現場をみて人の話を聞くフィールドワークや体験型WSを通じて、以下のような島の成り立ちと現在の姿を学んでいきます。</p> <p>a)現在の自然景観は、どのような背景（歴史的な経緯）を持っているか b)厳しい自然制約のなかで、地域社会がどのように適応し、利用し、守ってきたか c)現在の地域社会が直面する課題と、未来へつなげる希望はなにか</p>	
	空手・古武道	<p>日本の伝統文化のひとつとして国際社会に広く知られた存在である「空手・古武道」は、沖縄を発祥の地とし、現在、沖縄県は「空手・古武道」の保存と振興を図っている。本科目では、今後の望ましい「空手ツーリズム」のあり方を考えるための手がかりを得ることを目的として、「空手・古武道」の歴史や技法について理解し、体験を通じて学ぶ。又、心を磨き礼節を重んじる「平和の武」としての「空手・古武道」の基本的な態度を学ぶ。併せて、現在の「空手・古武道」が抱える課題を概観し、望ましい「空手ツーリズム」のあり方について討議する。</p>	
	くいちゃー	<p>14世紀にはじまったと言われる宮古島の伝統的な踊り「くいちゃー」を地域の4つの地区の方からそれぞれ違った踊りを学ぶとともに、「人頭税」をはじめとする宮古島の歴史についても地域の年長者から直接話を聞く。</p> <p>地域の年長者から直接学ぶことによって自分とは違う文化を持った、また年代も違う人とコミュニケーションを取り、ホスピタリティ精神を持って接することを身につけることができる。また、「くいちゃー」を踊ることによって年配者が適度な運動を続けることが健康維持につながるということが授業の中で身をもって学ぶことができる。</p> <p>宮古島の「くいちゃー」を学ぶことによって、地方の文化に敬意を持って接することができるようになり、将来観光分野の人材としていろいろな土地でその土地の文化を尊重し、活躍できることが期待できる。</p> <p>本授業では、9月に行われる地域の「ふれあいまつり」に参加することを目標とする。また「ふれあいまつり」の準備を学生が地域の人と一緒にやることによって、チームワークの大切さを学ぶ。</p>	
専門教育科目	基盤科目群 社会学入門	<p>社会学では、社会で起こる様々な事象や、社会では「当たり前」と思われているようなことに対して抱いた疑問を、計量的あるいは質的に分析する。その分析を通して、社会やそこで生きる人間の本質を解き明かしていく。社会そのものが研究対象であり、多くの研究分野と隣接することから、テーマも非常に多岐にわたる学問である。そこで、本授業では、観光社会学を学ぶ学生を対象とすることを踏まえ、観光社会学、文化社会学、都市社会学、地域社会学、災害社会学、情報社会学、社会心理学等の内容を中心に講義を行う。</p>	
	社会学入門	<p>社会調査は、現実の社会現象を認識し理解するための優れた手段の一つである。本科目では、社会的文脈に即して個別事例を分析する質的調査について、そのデータの収集方法や分析方法に関する理解を深めることを目的とする。具体的には、調査の各段階で必要となる「観察」や「面接」などの調査技術、ライフストーリー分析・内容分析・ビジュアル分析などの分析方法について取り上げ、その概要を解説しつつ、質的調査の基本的な考え方やその長所・短所などについて幅広く学習し、実際の調査技術・分析方法を用いる際に注意すべき事項を説明できるように要点を整理する。そして、現在までに実施された調査事例について、その長所・短所を討議する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会調査法Ⅱ	本授業では、社会調査のうち、数量的に社会現象を分析する量的調査について学ぶ。量的調査では、データ収集に「アンケート」や「面接」「観察」等の方法を用い、これらにより得られた量的データを様々な検定手法で分析することで、社会事象の本質を紐解いていく。まずは、これらの調査方法の計画立案、アンケートや面接ガイド等の作成方法、サンプリング方法、調査の実施方法、データの分析方法等を講義で概説する。つづいて、実際にリサーチクエスチョンをたてるところから、模擬調査の実施、データの分析までを実践する。 本授業を通じて、量的調査による社会事象の見方や、量的調査の仕方を身につける。	
	観光学概論	観光学はその本質において学際的な学問である。そのため、観光学では、広範な視角から研究が進められる必要がある。本授業では、観光学を学んでいく上で、そのような学問体系が関係し、それぞれの観点から観光をどのようにとらえ、位置づけていくのか、そしてそれらをどのように関係付け、総合化していくかについて論じる。具体的には政治学、経済学、経営学、社会学、といった既存の学問体系を基礎とし、その上で、それぞれと観光学との関係性、そしてその深化を図るための道筋を問う。	
	観光社会学	観光は、日本の成長戦略としてますます重視されるようになり、日本を訪れる外国人観光客も年間2000万人を超えるようになりました（新型コロナ危機以前）。この授業は、観光を現代のグローバル化する社会を理解するための重要な社会現象ととらえ、社会学の立場から観光にアプローチし、社会の歴史的・構造的な変化と観光のあり方を関連づけながら理解することを目指します。さらに、観光にかかわる様々な営みに伴って生じてきた負の側面や、コロナ危機によって明らかになった諸課題について併せて検討していきます。	
	データサイエンスⅠ	本授業では、Society 5.0の社会で活躍するために必要不可欠な、数理・データサイエンスの重要性と可能性を理解し、その基本的素養について講義学習、チェックテスト、課題演習を通して習得する。 文系、理系問わず数理・データサイエンスの基本的素養が求められる中、本学学生が数理・データサイエンスを理解する第一歩となるよう、数学的説明をできるだけ省略しながら表計算ソフトの機能を用いて、情報を整理、分類、予測することを学ぶ。	
	データサイエンスⅡ	観光分野は、客観的なデータに基づいたマーケティングが特に重視される分野である。集積された基本的データの分析は勿論、地域やターゲット層のニーズ特性の把握や最近では位置情報に基づく旅行者の動態変化の分析、SNSに投稿された文章のテキストマイニングなどは事業方針やイベント・キャンペーンの企画などに不可欠となっている。本授業は「データサイエンス基礎」の学修を基盤に、観光分野に対象を絞り、実際の業務に必要な応用的なデータサイエンスの理論と手法を学修する。	
	データサイエンスⅢ	データサイエンスⅡにおいて学んだデータサイエンスの理論と手法を基に、実際の観光分野の基本的なビッグデータを素材とし、必要な情報を抽出するトレーニングを行う。データのクレンジングと加工、データベースの構築に熟練すると共に大量のデータの中から重要な情報（傾向やデータの示す意味）を把握できる能力を育成する。データ素材の収集及びデータから得られた情報の評価については観光分野の専任教員の協力を得る。	
	AI基礎	本授業では、コンピュータ性能の飛躍的な向上と、ビッグデータによってAI（人工知能）が現実的なものとなり、これからの社会を変えていくことを理解し、そのような社会を生き抜く為に必要な知識について考える。AIに関連する、歴史、動向、問題、具体的手法、研究分野などを学習し、AI（人工知能）の基礎知識を習得する。	
基幹科目群	観光産業入門	国が進める観光政策や観光産業を取り巻く近年の変化について把握するとともに、旅行業、宿泊業、運輸業、観光施設業の業界構造や市場動向についての知識を修得する。とりわけ旅行業については、業態や商品の分類、流通について網羅的に理解するとともに、アウトバウンド・インバウンドマーケットを量的質的の両面から研究する。また、観光消費の視点から他産業との関係性を把握するとともに、SDGsや地方創生等社会課題に対する向き合い方について議論する。観光産業の果たす役割と中長期的視座で見通す観光産業のあり方について理解することで、観光産業の発展を図る創造的な能力や態度を育成することを目的とする。	
	ツーリズム論	かつて電気、自動車といった「ものづくり」ビジネスで経済発展してきた日本だが、有望な成長産業分野として国は「観光立国」のもとツーリズムを重要産業に位置づけた。ツーリズムはディステーションの目的地、体験、飲食、宿泊、土産といった観光コンテンツとそれらを結ぶ交通、さらにそれらを束ねる旅行商品の開発とビジネス領域も非常に幅広く経済効果も高く業務も幅広い。また、それを支えるテクノロジーやいわゆる観光DX領域についても予約から決済領域まで様々で、それらをカバーするには全体を俯瞰し、個別に深掘りしなくてはならない。 本講義では、参加する学生にとって自分ごととして考えられる様に様々な領域のビジネスモデルとそれを持続可能な活動にするための理論の習得を目指す。 そのために講師が実務で実際に関わっている事例も活用し、PBL型の授業を採用しアクティブラーニングの実践を通してツーリズムについて理解を促す。また、チームごとのディスカッションなどを取り入れたインタラクティブコミュニケーション手法も取り入れた授業を行う。具体的には講義の中で、実務者のゲストスピーカーを迎えて講義とディスカッションによる進行を行ないチームメンバーが共同で実践的な作業をして協調を身に付ける形式を採用する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	観光企業研究Ⅰ	本授業は宮古島の企業で活躍している経営者、マネージャークラスまたは現場第一線の方々それぞれの企業について講義をいただく。 人口5万5千人ほどの小さな島に年間100万人を超える（令和元年度）観光客を迎える宮古島市の観光業界の方の実体験に基づく講義から、将来観光業界で活躍しようと考えている学生が学ぶことは多い。 本授業を通じて、「ホスピタリティ精神」「コミュニケーション能力」などが必要とされていることを現場の方から直接学ぶことは知識を得るだけではなく、「気づき」を習得する。	
	観光企業研究Ⅱ	本授業は、ホテル・ブライダル、旅行等の業界動向、業務内容の理解と学生各人の考える力、文章能力、コミュニケーション能力の向上を習得させ、観光関連産業に有用な人材を輩出することとする。 観光関連企業の経営幹部をゲスト講師として招き、観光関連各分野についての講義をいただく。講義終了後の質疑応答、講義内容の要旨のレポート提出を通じて、各産業、企業の動向、仕事の内容への理解を深め、自分の適性を考えさせるきっかけとする。 上記のほか、マネジメント、会社の組織規則、働く意味、ホスピタリティ、地域開発、ホテルとは何かについての講義を行う。特に質問をさせることに重点を置き、そのことにより学生により授業内容への理解を深めることができるよう学生に話す時間を多く設ける。	
	観光地理学A	本授業では、空間や環境に目を向ける地理学の立場から、日本各地の観光地の歴史と現代的課題について学ぶ。本授業の目標は、地理学の目線から観光地を読み解く方法を習得すると共に、自分の目で新たな観光資源を見つけ、観光に取り入れる方法を学ぶことである。講義形式を基本としつつ、キャンパスの所在地である尼崎を対象としてフィールドワークを行う。各回では具体的な観光地を事例として、観光地理学の主要なトピックについて解説する。	
	観光地理学B	本授業では、日本の自然や社会、産業、都市などの地理的テーマについて、地図を使いながら学んでいく。主に前半では人文地理学、後半では自然地理学を扱い、全体として日本の地誌を学べるような構成とする。本授業の目標は、日本の各地域の特質および地域間の相互関係を学ぶとともに、地理学の主要なトピックや方法論（特に地図）について知ることである。授業形態は講義形式を主としつつ、地図の読解等でグループワークを取り入れる。	
	観光と食	「食」は観光の基本的サービスの一つであり、旅行の目的に関するアンケートにおいては必ずと言って良いほど上位にランクされる。このことを踏まえ、観光における人々の食に関する行動パターン（情報収集の手段や旅行における食の重要度、食に関する選択の決め手、投資金額、満足するポイントなど）を各種データの分析や旅行関係者の体験などを基に総合的に理解する。メディアを活用する授業の特性を生かし、レストラン等の取材映像などを多用する。	
	大使館観光局ゲスト講義	外国の大使、外交官、観光局関係者をゲストとしてお迎えし、海外文化の理解ならびに国際コミュニケーションとプロトコル（国際儀礼）を理解し実践する場となる授業とし、次の到達目標を設定する。 （１）海外のゲストへのマナーを理解し身につける （２）対話を促すための質問力を身につける （３）ゲストの講演内容の重要点を理解しまとめることができる 授業は次の2つを交互に行う。 （１）ゲスト（外国の大使、外交官、観光局関係者）の講演と質疑 （２）ゲストをお迎えする準備としてのゲストの国の研究 受講生はグループ単位でゲストの応対を担当し、質疑をリードする。 ゲスト講演に先立ち、ゲストの担当国について毎回レポートを提出する	
	リスクマネジメント	会社経営のみならず、個人の経済活動、社会活動、情報取得、自然災害などリスクはどこにでも存在する。リスクに対応するためには、それらのリスクを認識し、リスクに対する対処方法を習得する必要がある。 本授業においては、主に社会生活および企業活動におけるリスク、特に観光マネジメントにおけるリスクマネジメントの意義に焦点をあてる。リスクマネジメントの基礎であるリスク関連用語の意味、リスクの心理的側面などにつき説明した後に、危機管理の仕組み、リスクマネジメントのプロセスについてリスクマネジメントの実際のケースを交えて詳述する。本授業を通じて、以下の知識・技能等を身につける。 １．リスクマネジメントのメカニズムを理解し、リスクを察知する能力、未然に回避・除去できる手法を取得すること。 ２．リスクマネジメントのケーススタディ、リスクマッピングを通して問題解決能力を身につけること。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	広報・マスコミ対応	<p>観光業のベースとなる集客の重要性を理解させる。自身が所属する組織をいかに社会にアピールするか、同業他社に勝つためには、いかなる文章やスピーチが必要か、広告と広報との差異を実例とともに学習する。(オムニバス方式/14回)</p> <p>(④ 林壮一/6回) 観光業は、マーケティングと同様に宣伝が欠かせない。世界有数の観光地であるラスベガスのホテル産業の広報を例とし、そのPR文を模範としたうえで、自身が所属する組織をいかに社会にアピールしていくべきかを学び理解する。同業他社に勝つための策、言葉の言い回し、キャッチコピー、写真、動画を用いてPR文の書き方を学習する。インパクトとは何なのか、集客には何が大事なのか、観光地には何が求められるか等の知識を増やしながら、学生たちが自らの手で大学のHPを使ってアピール記事に取り組むなかで、その本質を理解する。</p> <p>(② 神田達哉/8回) 広報と広告の差異を理解したうえで、企業等の組織が外部の組織や個人や社会と育むコミュニケーションのあるべき姿について理論と事例から理解する。そのうえで、様々な広報手法の特徴について把握するとともに、ブランディングやマーケティングに関するコミュニケーション活動の諸問題を考察し、ケーススタディを通じて広報の重要性を理解する。また、組織内広報のあり方についても理論と事例をつづじて基礎的知識を修得する。</p>	オムニバス
	観光関連法規	<p>観光主体(旅行者)の観光行動の促進を図りながら、その一方で観光により生じる諸問題を解決するのに必要な法制度(観光関連法規)について学ぶ。また、観光行政による法制度の施行が、観光主体(旅行者)、観光客体(観光資源)、観光媒体(観光業)、観光地周辺及びそこで生活する住民など(まち)にどのような影響を及ぼすのかについても考察する。</p>	
	観光メディア論	<p>ヒトは江戸時代のお伊勢参り(伊勢神宮への参拝を目的とした観光旅行)の時代からメディアの情報を参考にして観光という活動を行なってきた。印刷→放送→インターネットとメディアテクノロジーの進展に伴って観光のビジネス形態にどのような影響を与え、新たにどういった観光のビジネスを生んできたのかを考え、多様なメディアの存在や特性の知識を得ることもできる。さらに観光ビジネスやメディアにおける幅広い業務についての専門性も分類できる様になることを目指す。本講義ではメディアテクノロジーの進展が観光ビジネスに与えてきた影響を理解すると共に学生にとっては非常に身近なSNSを活用した観光メディアに至った背景についても知識を深め、観光ビジネスだけでなくメディアの将来像についても描くことができるようになる。</p>	
	人体の構造と機能	<p>1, 一般的な人体の基本構造として、細胞、組織、器官の概要について解説する。また各器官系統(運動器、循環器、消化器、呼吸器、泌尿生殖器、内分泌器)の特徴や主な機能について概説する。</p> <p>2, ツアー客の旅行中に起こる様々な苦痛や病気に対して適した応急処置、病院への誘導ができるように、症状や病的状態と診療各科との関連について一般的知識を身につけるようにする。</p> <p>3, それには簡単な人体の解剖学的、生理学的知識を、まず理解させることが必要であり、人体における内臓各器官の位置やその働きの概要を理解させることを目的とする。</p> <p>4, 具体的に便秘、下痢、消化不良など消化器系トラブルや旅行中によく起こる身体の不調-足の疲れ、めまい、肩こり、腰痛、不眠などを発症した時の適切な対応ができるようにする。</p>	
	東洋医学入門	<p>東洋医学とは日本や中国をはじめとする東洋で発達した医学である。東洋医学にはあんま、マッサージ指圧、気功なども広義に含まれるが、主には鍼灸医学と漢方医学が挙げられる。</p> <p>鍼灸の治療方法は大きく古典的アプローチ、科学的アプローチをする2派に分けることができる。古典的というのは中医学や脈診を中心とする古典的手法を用いる派で、科学的というのは現代医学的EBMで根拠のある治療法を中心に組み立てる派である。</p> <p>また漢方薬は草根木皮を煎じるものから現状では顆粒状や粉末製剤になり、健康保険が適応されて病名を中心に一般医家で用いられている。本授業では古典的東洋医学の考え方や陰陽・五行、表裏寒熱、虚実補瀉など基本的用語を解説するとともに、漢方薬の代表処方例を紹介する。</p> <p>また経絡経穴学では治療によく用いられるツボについて、病気や症状の関連で実際にツボが取れるように講義の中で手法を解説し自身の健康の確認、維持に役立つことなどを理解する。</p>	
	公衆衛生学	<p>今日、少子高齢化が現実となり、国民の健康福祉を担保する社会保障制度は、大きなターニングポイントを迎えている。本授業では、人口統計、国民の健康、予防医学、環境衛生など幅広く国民福祉に関わる事柄について学ぶ。観光に関わるものとしては知っておくべき分野であるのだという意義をとらえて身につける必要がある。本授業を通じて、以下の知識・技能を身につけることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念を理解し説明できる。 2. 衛生行政活動を理解し説明できる。 3. 健康に関する諸問題とその対策などについて理解し説明できる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	介護の基本	<p>本授業では、「介護」の基本的な知識を学び、接遇の技術として基本的な生活支援技術・コミュニケーション技術を、演習をおとして身につけることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の少子高齢社会の現状と介護の必要性和役割・機能について学ぶ。 ・介護保険制度の基本理念や介護サービスについての知識について学ぶ。 ・介護の対象である高齢者の身体の変化や多い疾病やその特徴について学ぶ。 ・障がい者の方への知識・理解について学ぶ。 ・日常生活に必要な生活支援技術の基礎について学ぶ。 ・利用者に対し安全・安心な支援が提供できる知識について学ぶ。 ・演習で移動・移乗介助、食事介助、トイレ介助、入浴介助（清潔）などの生活支援技術の基礎を身につける。 ・演習で、安全への配慮、適切な見守りについて体験する。 ・接遇の基本となるマナーやコミュニケーションについて学ぶ。 ・障がいや状況に応じてのコミュニケーションスキルについて学ぶ。 ・利用者や利用者家族との関係づくりについて学ぶ。 ・演習で、適切な声かけの技術を身につけ、障がいや状況に応じてのコミュニケーションを、ロールプレイをおとして体験する。 	講義：16時間 演習：12時間
	メディカルツーリズム論	<p>医療と観光を結ぶメディカルツーリズムは、近年多くの国々で産業としての注目を集めており、日本においても推進が図られている。本授業科目は、メディカルツーリズムの歴史や概念について学ぶと共に、文化人類学的視点を踏まえ、メディカルツーリズムに対する日本の取り組みや日本が抱える課題、また医療ツーリストとしての訪日外国人への応接方法などを考える。加えて、ポストコロナにおける望ましいメディカルツーリズムのあり方について討議する。</p> <p>本授業を通じて知識・能力を身につけることを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①メディカルツーリズムの概念をのべることができる。 ②ヘルスツーリズムの概念をのべることができる。 ③日本におけるメディカルツーリズムの課題につき討議できる。 	
	観光医療Ⅰ	<p>観光医療とは観光に関連した医療と考えられる。その医療の一分野である旅行医学という応用医学分野がある。観光と旅行は関連性が深いので、本授業では旅行医学のテーマの一つとしての救急旅行医学を扱い、この救急に対する応急処置について授業する。特に、心肺蘇生法について理解、実行が可能になるように講義に加え、「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」に基づく上級救命講習の講習内容に準拠した演習を通じて心肺蘇生（CPCR）及び対外式除細動器（AED）による一次救命の技術及び応急処置・運搬法を習得する。</p> <p>主に旅行医学に焦点をあて、救急医学、感染症医学を主とする応急処置について理解を深める。</p> <p>人体の構造と機能を理解の上、応急処置、心肺蘇生について理解、実行への参加を可能となるように授業計画する。</p>	講義：20時間 演習：8時間
	観光医療Ⅱ	<p>「観光医療Ⅰ」の旅行医学の一般論、応急処置を理解した上で、更なる具体的な疾病（心筋梗塞、脳卒中など）、感染症（コロナ感染など）、航空機内での医学について、世界統一のルールで講義する。主に旅行医学に焦点をあて、救急医学、感染症医学の具体的な疾病について理解を深める。</p> <p>「観光医療Ⅰ」を理解した上で、具体的な疾病について理解できるように授業を進める。高学年での授業であるエアライン、健康と疾病の理解、人体の構造と機能演習と関連性を教授する授業計画とする。</p>	
	ホスピタリティ	<p>マーケティングコミュニケーションに欠かせないマナーの要素、企業に入り社員との連携もマナーから始まる。会社の存在や継続のマナーがなければ淘汰されます。企業の社会的責任もプロトコルであり、ホスピタリティ（相手を思う気持ち）もプロトコルである。ここでは、全ての方面からマナーを研究し、本来の国際基準としたプロトコルを学習する他に、プロトコルとビジネス、正しい歩行、コミュニケーションツールの研究を行い、実社会においての実務能力の向上に繋がる学習をする。他に国際基準のコミュニケーションや接遇、ビジネスマナーに至るところまで学習する。</p>	
	地域ボランティア	<p>先島諸島は黒潮の影響で主に冬場に海外からたくさんの海洋ゴミが漂着してきます。</p> <p>世界的にも注目されているSDGs持続可能な開発目標。2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標の17のゴール。その中の一つ「14 海の豊かさを守ろう」。</p> <p>宮古島も抱えるこの問題を他人事ではなく自分事として捉えるにはどうしたらいいのか？</p> <p>観光業に携わる人、島で生きる人、観光で訪れる人、行政、この島に関わる全ての人が一体となって世界が抱える問題にどうアクションを起こしたらいいのか？</p> <p>実際に人や島、人の心を動かすにはどんな動きが必要か？</p> <p>ビーチクリーンを通して共に考え社会に出て行動を起こせる人材になるには？など育んでいきたいと考えています。</p>	
	エコツーリズム/サステナブルツーリズム	<p>今や地球規模で環境問題に取り組むことが急務となっている中、観光も持続可能性が重要課題となっている。</p> <p>本授業では、地域の自然や文化を守るエコツーリズムの概念と持続可能な観光の基本、歴史、背景を理解し、サステナブルな取り組みをしている企業の事例を学び、現状と課題を考察することを目的とする。</p> <p>また、自然解説の手法の学びを通じてコミュニケーション能力の向上をはかると共に、リスクマネジメントの理解、エコツアーを体験し、実践的能力を育む。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ユニバーサルツーリズム	本授業では、我が国が推進する、ユニバーサルデザインに基づき、国籍、年齢、性別、文化、身体能力等、誰もが観光しやすい社会環境の実現を目指す、ユニバーサルツーリズムについて学ぶ。 多様な人々における観光は、交通、宿泊、飲食、物販、観光、体験施設、神社仏閣などのハード面の整備が必要とされ、旅行当事者とのコミュニケーション、言語文字表記、食材制限、アレルギー、LGBTQ等、各状況に応じた人的ケアサポートなどのソフト面の整備が必要である。 本授業を通じて、各状況での障壁を見つけ、除去するバリアフリー能力獲得のための、想像力、発想力を養い、観光客の視線に立ったコミュニケーション力、おもてなし力を身につけ、新しい社会構造に対応しうる、おもてなしの人間力を身につける。	
	世界のトップアスリート	観光学とスポーツは切っても切り離せない。そこで、ベトナム戦争への徴兵を拒否したモハメド・アリ、黒人初のメジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソン、1968年のメキシコ五輪の表彰台で、黒人への差別撤廃を叫んだトミー・スミスとジョン・カルロス、サッカー史上最高の男、ペレ、それに次ぐ時代の寵児となったディエゴ・マラドーナ、バスケットボールの地球の隅々にまで普及させたマイケル・ジョーダン、そして日本の人気アスリートと時代の変貌を学ぶ。	
発展科目群	ヘルスツーリズム領域	<p>少子高齢化社会における立国政策として、現代日本では「観光立国」と「政策立国」が目指されており、その手段として「ヘルスツーリズム」「ウェルネス」が注目を集めている。本授業では、「ヘルスツーリズム」「ウェルネス」について、その理念や実態に関する理解を深めることを目的とする。具体的には、日本ヘルスツーリズム振興機構の公式アテンダントである担当教員らが、「ヘルスツーリズム」「ウェルネス」分類や実践事例を取り上げ、その概要を解説し、望ましい観光プログラムのあり方について、幅広く学習する。そして、現代日本が抱える諸問題に「ヘルスツーリズム」「ウェルネス」がどのように貢献出来るかを討議する。（オムニバス方式/7回、共同/7回）</p> <p>(2 足立賢二/4回) ヘルスツーリズムの一領域である「メディカルツーリズム」における「治療」と「リハビリテーション」、「疾病予防」における「ウェルネスツーリズム」の基礎知識を整理し、その現状を理解する。また、ストレス理論とメンタルヘルスの方法論に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>(22 菊池勇哉/3回) ヘルスツーリズムの一領域である「メディカルツーリズム」における「健診」と「検診」、「疾病予防」における「ヘルスプロモーション」「特定疾患の予防」の基礎知識を整理、現状を理解する。</p> <p>(2 足立賢二・22 菊池勇哉/7回) (共同) 日本ヘルスツーリズム振興機構の公式アテンダントである担当教員らが、「ヘルスツーリズム」の実践事例を取り上げ、その概要を解説し、望ましい観光プログラムのあり方について、幅広く学習する。</p>	オムニバス一部共同
	ウェルネスツーリズム論	ウェルネスツーリズムは新型コロナの感染拡大と共に注目されるようになった新しいツーリズムの概念である。新型コロナ感染拡大という未曾有の危機環境においてリーダー達は短期間の間に今まで経験したことのない様な予測不能な判断を様々な場面で求められた。その結果として、高付加価値な層の間では単に健康を追い求めるヘルスツーリズムや医療ツーリズムでなく精神の豊かさや持続可能な自然環境の維持、地球に負荷をかけない食や生活といったウェルビーイングなコンテンツによって形成されたウェルネスツーリズムに注目するようになった。そういった意味でウェルネスツーリズムは非常に新しい概念であると共に業務についても確立されておらず観光の専門性だけでなく医療の基本的な知識や地域独自の文化や独自性など幅広いコンテンツが求められる。また、ウェルネスツーリズムは海外の方が進んでおり、国内との差が歴然とした分野でもある。本講義では事例を通じたPBL型授業としてハイインパクトプラクティスの実践も取り入れ、ウェルネスツーリズムの全体像を把握すると共に実務的にウェルネスツーリズムのビジネスを機会と捉えチームで検討することで身近なビジネスチャンスとして考える力をつけることを目指す。	
	東洋医学概論	観光学の目的の一つに、企業活動におけるホスピタリティサービスの重要性がある。ホスピタリティとは、人と人、人と自然などの関わりにおいて具現化されるものであると言われている。本授業では、観光と大きく関わりを持つ、人と人、人と自然との繋がりをより深く理解する能力を養うために、柔術を起源とした柔道整復術について学ぶ。 柔道整復術（古称：正骨）の由来は東洋医学の一分野に属しており、人体の構造と機能ならびに病因論を、東洋医学の基本理論を根拠としていた。例えば、外力による人体の皮肉筋骨の損傷は、東洋医学の疾病観である気血、経絡、臓腑の異常によるものであると捉える。つまり、外因（外力）によるとはいえ、内因とも密接不可分の関係があるというのが東洋医学の疾病観である。 観光学科において柔道整復術を学ぶことは、医療の基本理論を理解するとともに、人と人、人と自然との繋がりをより深く理解するために重要な要素であるといえる。	
	健康と疾病の理解	本授業では、人の成長、発達、老化という一連の正常運動発達を通して、ライフステージの特徴、課題、評価を学ぶ。また人間が各ステージで経験するであろう主要な疾病の理解を目的に、基礎医学の知識を教授する。その他、国際生活機能分類にも触れ、肯定的見地からの健康と疾病の関係性についても学ぶ。この講義を通して、多様な社会的場面における課題、対処方法に関する知識の習得と国際的な概念のもと様々な疾病にたいし、全人間的見地から俯瞰できるようになることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	伝統医療論	世界各地には様々な「医学」と「医療」が存在する。その中には現代医学や漢方医学の様に明確な体系をもつものから非体系的かつ経験的な民間医療などがあり、日本でもこれらの医学／医療は盛んに実践されている。本科目では医療に関する社会学・人類学の視点を踏まえ、現代医学・伝統医学・民間医療の歴史や概念を学ぶとともに、それらの比較を通じて、それらが人々の「ナラティブ」にどのように向き合っているのかを知り、現代日本における「医学」の「医療」の抱える諸問題を考え、討議する。		
	養生身体文化論	世界各地には「生命を養い、健康の増進をはかること」を目的とした身体文化が存在し、日本ではこれを「養生法」と呼ぶ。これらの中には、「太極拳」のように世界遺産化したものや、「気功」や「合気道」のように体系化されたもの、非体系的かつ経験的なものなどがあり、現代日本でも盛んに実践されていることを観察できる。本科目では、「養生法」に関する社会学・人類学的視点を踏まえ、特に「気功」「太極拳」「古武道」「合気系武術」「各種の体療法」の歴史や概念を整理しつつ、それらの比較を通じて、現代日本における「養生法」の実際を理解し、併せて「養生法」から見える現代日本が抱える諸問題を考える。		
	食と健康	食と健康に関する理解を深め、健康につながる食について学生が将来自分の頭で考え、知識を習得し、他人に教えたりすることが可能になるような授業内容にしたいと考えております。一方通行の知識伝達では無く学生からのフィードバックも得られる方法も積極的に取り入れる。 また、生物学が基礎となることから、最新の分子生物学についても時間を割り当てる。		
	東洋医学刺激療法	観光学の目的の一つに、企業活動におけるホスピタリティサービスの重要性がある。ホスピタリティとは、人と人、人と自然などの関わりにおいて具現化されるものであると言われている。観光と大きく関わりを持つ、人と人、人と自然との繋がりをより深く理解する能力を養うために、東洋医学の治療法の一つである刺激療法について学ぶ。 所謂、東洋医学を基盤とした刺激療法による治効機序に関する研究は飛躍的に進歩している。薬を使わない刺激がホルヒネ様物質を発現させることや、神経系、免疫系、内分泌系を活性化させてホメオスタシスの向上作用など、科学的根拠に基づく医療として検証が進められている。本講義では東洋医学を応用した刺激療法として、SSP療法をはじめ、低反応レベルレーザー療法では経穴刺激を応用し、疼痛疾患を中心に整形外科やペインクリニック、末期癌患者の緩和ケア、さらに高齢者の慢性疾患 やスポーツ傷害に伴う疼痛などの臨床に即した内容を学習する。		
	機能回復	2021年日本の総人口は前年に比べ51万人減少している一方で、65歳以上の高齢者は3640万人となり前年比22万人増加している。総人口に占める割合は29.1%で人口の30%近い高齢者人口の状況を踏まえ、hospitalityの観点から高齢者も含めholisticに健康増進を目的とした活動的日常生活（HQOL）を促す必要がある。 当該科目は人体の機能解剖を中心とした活動的日常生活（HQOL）に欠かせない動作活動の外傷発生機序を通してその原因となる身体劣化に対する予防の必要性を教授する。 呼吸法による自律神経機能調整法、怪我の予防となる関節可動域（ROM）拡大に伴うストレッチ法や筋力アップ体操など、児童期、思春期、若壮年期、老年期のそれぞれに遭遇する各年代の特徴的体構造から伴う症状や、経年変化に伴う身体的症状に対して予防可能な体力づくりを理論的に学習する。		
	薬膳	中国では「薬食同源」と言う言葉が古くから使われており、源が同じ「薬」と「食」を本講義では食と健康を基にした内容の「薬膳」の講義を進めていく。薬草を食材としたものだけでなく、身近な食材、地域における特産物、旬の食材などを如何に組み合わせることで健康的な食事になるか。また、東洋医学的理論を基とした薬膳、季節に応じた薬膳、生活習慣病における薬膳、日本に古くからある食養生法、エビデンスに基づいた食事療法などを紹介し、食と免疫についても講義する。		
	地域経営（観光）領域	地域学入門	地域とは何か、この解釈理解にもいろいろなことが考えられる。本講義では、まずは自らが住む地域のことを知り、そしてそのことが自ら自身を知ることにつながることに留意する。さらに地域とは、そもそもつながっている世界を自らが一定のかたまりのようなものを切り取ることによって定まるものであるとも言える。したがって、地域学とは、地域と自らのことを学び深めていくことである。本講義では、抽象的な言語や普遍的な理論を学ぶのではなく、ある地域という具体的な時空にいる自らを、特定の人のいる環境のなかに照射していく、そのことを深く考え学んでいくことめざす。そして、具体的な問題について、学生諸氏と討議検討していきたい。	
	地域まちづくり（講義）	まちづくりとは何か、この解釈理解にもいろいろなことが考えられる。本講義では、まちづくりを、人々が生活している地域空間での諸問題の解決をめざし、地域資源の価値を見出し、それらを保全し時には改善し展開していく取り組みであるととらえる。そして、地域の課題の提起と解決、また価値の発見や評価および合意形成などのまちづくりのプロセスについて講義する。 さらには、このような営みを、住民が主導しつつも行政や専門家と協働してすすめることがまさに創造的なまちづくりになることについて述べる。また、具体的なまちづくりのすすめ方や取り組みについて、学生諸氏と討議検討する。		
	地域まちづくり（演習）	宮古島の自然と人間を尊重したまちづくりとは何か、現実の課題を具体的にとりあげてグループワークなどで学生諸氏の主体的な理解を促す。そして、まちづくり課題検討についてのファシリテーションやプレゼンテーションの手法などについても学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
エ ア ラ イ ン 領 域	地域コミュニティ創造支援論	地域コミュニティとはそもそもどのようなものであるのか、その系譜や歴史的かつ思想的な課題について検討し解説していく。現状地域コミュニティは、都市化による住民の移動や居住環境の変容によりいわゆる崩壊の危機にあると言われている。しかし一方、町内会や住民運動、またそれこそ昨今のまちづくり運動などによって、新たなるコミュニティの形成も進んでいる面もある。それでもなお、地域コミュニティの新たな課題も見られることもあり、これからの地域コミュニティの意義について、学生諸氏とともに検討していきたい。	
	地域行政研究	地域で生活する人が住みよきと感じる社会を創っていくために、行政としてどのようなさまざまな施策をすすめた地域のマネジメントをどのように行っていくのかは、地域の自治体は言うまでもなくその地域に住みひとりひとりの意識にも大いに関係してくる。したがって、具体的にはいわゆる社会起業家の台頭や、NPO法人または社会的企業との連携などの動向について考えていく。本講義では、これからの新しい地域行政の変革のありようなどを学生諸氏と討議検討していきたい。	
	地域経済論	本業では、高度経済成長以降の日本の国土開発と地域経済の変容の歴史を通して、「地域発展」を支えた構造的な条件およびその継続が困難になった要因について学び、日本の地域経済の現状、諸問題、課題を把握していく。また、各論として、地域成長・発展の経済諸理論、都市と農村の比較理論、内発的発展論、地方自治政策論などを取りあげ、いくつかの地域活性化モデルやアイデアについても説明し、地域経済を諸々の側面からみていくことで、地域が抱える諸問題・諸課題を立体的に把握し、その解決の方向性を考察する。 本授業を通じて、以下の知識、技能を身につけることを到達目標とする。 1. 地域経済の理論と現状の問題に関する基礎的な知識を身につける。 2. 経済のグローバル化の下で変貌していった日本の地域経済の今後のあり方、政策のあり方について自己の視点から考察できる能力を身につける。	
	ホテル文化論	ホテルとは、企業意識の捉え方ではなく、公共性をもつ要素が多く、緊急時には避難所になり、生活では文化の発信元である。各時代の思想・政治・芸術・食文化を考察しながら、ホテルの役割を学習する。ホテルの文化との係わりを学習する。授業では各自に対して、ホテルを調査研究してもらう。ホテルロビーの雰囲気、絵画や、オブジュ等々の美術性、バランス、色彩、等々の佇まい、ホテルによっての差異を確認、清掃具合やトイレの状態にも文化が反映される。利用しやすいホテルの特徴を同時に調査する。	
	ホテルビジネス論	ホテルの成り立ちをはじめ、ホテルビジネス全体を学習する。具体的にホテルに直接関連する施設、設備などの業者、旅行代理店、各種交通機関、との連携のしくみや、チェーンホテルの形態など、ホテルの形態を学習する。またホテルにとって重要な社会的責任関連も授業する。加えて競合が過熱するホテル経営、増加をたどる国内需要、外資ホテルの進出でホテルのセグメンテーションが明確に現れている。ここではホテルの経営を学習し、宿泊経営のあり方を学ぶ。ホテルは公共性であり、安全安心のため受講者全員は「防火管理者」・「防災管理者」の資格を取得を目指す。	
	飲食産業論	飲食産業の基本的な形態と基礎的な知識・利益構造・安心安全性や、健康や食に関する内部構造を学習する。 飲食産業とホスピタリティの関連、飲食産業の安心安全の歴史を理解し、原価や人件費、運営面までを学習する。また飲食産業はお客様が「命を預けて食する」ことであり、これに応え提供する心構えや、近年問題となっている食品ロスについてもとりあげる。各自に調査研究を課し、集約まとめを行う。※各自、食品衛生責任者の資格を取得する（食品衛生協会eラーニング）	
	ブライダル	ブライダル業界の基礎から将来像までを学習。 婚礼の意味と定義を学び、婚礼の歴史から近代儀式へと結婚の意味から儀式の理解をする。将来多様化する志向がビジネスチャンスである前提での事業計画の提案をする。	
	リゾートビジネス	ワークライフバランス、リゾート利用、リゾートならではのライフスタイル、余暇のあり方を学ぶ。 リゾート開発につきものの環境保全も学習する。また日本の休暇制度についての研究を行い、リゾートの歴史から世界のリゾート、総合リゾートまで講義する。 リゾートとは、ヒトの余暇があればこそそのビジネスであり、現代社会の福利厚生にも影響される分野である。「仕事と生活の調和」を学び、開発・運営・資金・環境・雇用等々を講義する。	
	エアライン・マネジメント	航空輸送を産業、市場および政策という各側面からとらえ、幅広く俯瞰しつつ基本的な事項について理解する。航空輸送産業は利益を追求する民間企業であり、市場競争の中で生き残ることが求められる。同時に公共事業という側面があり、過去政府から様々な規制や保護を受けてきた規制業種であった。現在では国内および国際航空の規制が緩和され、競争が激化し市場が大きく変化しつつある。航空輸送はまた空港や航空管制という公共インフラが不可欠である。航空輸送を包括的に理解するためにそれぞれのシステムとその関連性を理解することが重要となる。その上で、航空輸送サービスのマーケットの状況、および航空輸送を形成する各システムが抱える課題を考察し、将来の航空輸送の発展していく方向性について考察する。新型コロナウィルス（以下コロナ）が航空業界に及ぼした影響の理解、およびコロナ後の「ニューノーマル」の考察を含む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	航空経営論	航空機が空港を飛び立ち不安定な空間を飛行して無事目的地に着陸することは、当たり前のように見えて実は大変難易度が高いミッションである。これを可能にしているのが航空会社の組織体であり、従業員には個々の専門性に加え組織、職種間を超えたチームワークが要求される。また航空会社は全体最適の観点から一部のスキルをグループ会社・協力会社に移転することも多く、企業グループ全体の協力関係を理解することが必要になる。本授業では航空会社およびグループ会社の組織、ミッション、業務内容および従業員の仕事について総合的に理解し、それぞれに求められる社員像についても理解を深める。また、航空安全および環境問題などの経営課題について理解し、航空会社に期待される社会的な役割について理解する。また新型コロナウイルス（以下コロナ）が航空会社および経営戦略に及ぼした影響を理解し、コロナ後の「ニューノーマル」についても考察する。	
	交通産業論	交通は我々の生活にとって不可欠なインフラストラクチャ（＝社会共通基盤、以下インフラ）である。政府の交通政策、IT革命や輸送機材の技術革新、空港・港湾・新幹線・高速道路などのインフラ整備、および環境問題などにより影響を受けながら、常に変化しつつ進化している。交通産業が人々の生活様式や社会経済に及ぼす影響も大きい。リーマンショックや新型コロナウイルス（以下コロナ）などのイベントリスクにも影響を受けやすい。また利用者の高齢化などの社会的情勢の変化も大きな影響を及ぼす。訪日外国人急増などで予期しない事象も発生しうる。本講義では主要本邦交通産業の歴史、現状、経営状況および課題、新交通政策の影響、輸送モード間の競合状況などについて包括的に理解する。その上で各交通産業の将来像について考える。またコロナが交通産業および経営戦略に及ぼした影響を理解し、コロナ後の「ニューノーマル」について考察する。	
	航空産業論	航空産業を需要、供給、運賃（価格）の面から分析する。航空産業が提供するサービスは「様々な面」で通常の財やサービスとは異なる性質を持つが、この「様々な面」とは一体何か。また、その中で運賃（価格）がどのように決まるのかを学習する。さらに、航空産業の社会的使命について考えていきたい。	
	国際交通論	国境を越えたヒトの移動が拡大し、国際交通の重要性は増している。わが国では海に隔てられていることから、国際交通は事実上、航空または海上交通の二択であり、特に観光においてはスピードの面で分がある航空が主に利用されている。授業では航空を中心に、影響力が強い米国や欧州等の国際航空政策を学び、そこから日本が進むべき道（方策）を考察していく。	
	航空政策史	もともと規制産業であった航空産業であるが、市場・産業の発展につれて規制緩和（自由化）が導入されてきた。米国国内市場の規制緩和に始まり、EU（欧州連合）の航空市場統一、米国のオープンスカイ政策推進、アセアン航空市場自由化へと世界的に普及した。日本でも航空産業保護の観点から制定された憲法が廃止され、国内線の自由化、国際線のオープンスカイ推進政策が導入された。本講座では各地域の市場の歴史、特徴、規制緩和の推移、格安航空会社（LCC）の進展を含む市場・産業の変化の状況について説明する。規制緩和の大きな効果として出現したLCCの世界的躍進に注目する。また日本の規制緩和の歴史、および最新航空政策（オープンスカイの推進、LCC参入推進）の内容、その効果について説明する。また新型コロナウイルス（以下コロナ）が世界の航空政策、航空産業および経営戦略に及ぼした影響についても説明し、コロナ後の「ニューノーマル」について考察する。	
卒業研究	卒業研究	本科目は観光分野の学びの集大成である。前期の授業では、各自が自身の問題意識を踏まえて「問い」を立て、研究テーマを設定し、研究をすすめるための調査計画を立てて、一定の結論が見いだせるまで研究が進められるように、主として対話に基づき指導する。また、文献収集・資料収集の方法を学び、各自に必要な文献リストが作成できるよう指導する。調査により得られたデータを整理・分析・考察し、卒業論文を完成させることができるよう、発表・討論を繰り返し、それぞれの進捗状況に応じて指導する。完成後は、卒業研究発表会にて発表・報告し、討論・相互評価をへて今後の課題を明確化できるようにする。	

学校法人平成医療学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
宝塚医療大学				宝塚医療大学				
保健医療学部				保健医療学部				
理学療法学科	70	-	280	理学療法学科	70	-	280	
柔道整復学科	60	-	240	柔道整復学科	60	-	240	
鍼灸学科	30	-	120	鍼灸学科	30	-	120	
口腔保健学科	64	-	256	口腔保健学科	64	-	256	
和歌山保健医療学部				和歌山保健医療学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法専攻	60	-	240	理学療法専攻	60	-	240	
作業療法専攻	40	-	160	作業療法専攻	40	-	160	
看護学科	50	-	200	看護学科	50	-	200	
				<u>観光学部</u>				
				観光学科	100	=	400	学部の設置(認可申請)
計	374	-	1,496	計	474	-	1,896	
平成医療学園専門学校				平成医療学園専門学校				
柔道整復師科昼間部	60	-	180	柔道整復師科昼間部	60	-	180	
鍼灸師科昼間Ⅰ部	30	-	90	鍼灸師科昼間Ⅰ部	30	-	90	
鍼灸師科昼間Ⅱ部	27	-	81	鍼灸師科昼間Ⅱ部	27	-	81	
東洋療法教員養成学科	10	-	20	東洋療法教員養成学科	10	-	20	
日本語学科日本語1年コース	20		20	日本語学科日本語1年コース	20		20	
日本語学科医療福祉系1年コース	20	-	20	日本語学科医療福祉系1年コース	20	-	20	
日本語学科進学1.5年コース	60	-	120	日本語学科進学1.5年コース	60	-	120	
日本語学科進学2年コース	60	-	120	日本語学科進学2年コース	60	-	120	
応用日本語学科1年コース	40	-	40	応用日本語学科1年コース	40	-	40	
応用日本語学科2年コース	20	-	40	応用日本語学科2年コース	20	-	40	
計	347	-	731	計	347	-	731	
横浜医療専門学校				横浜医療専門学校				
柔道整復師科昼間	60	-	180	柔道整復師科昼間	60	-	180	
柔道整復師科夜間	30	-	90	柔道整復師科夜間	30	-	90	
鍼灸師科昼間	60	-	180	鍼灸師科昼間	60	-	180	
鍼灸師科夜間	30	-	90	鍼灸師科夜間	30	-	90	
日本語学科進学1.5年コース	20	-	20	日本語学科進学1.5年コース	20	-	20	
日本語学科進学2年コース	20	-	40	日本語学科進学2年コース	20	-	40	
計	220	-	600	計	220	-	600	
なにわ歯科衛生専門学校				なにわ歯科衛生専門学校				
歯科衛生士学科昼間	72	-	216	歯科衛生士学科昼間	72	-	216	
歯科衛生士学科夜間	36	-	108	歯科衛生士学科夜間	36	-	108	
計	108	-	324	計	108	-	324	
名古屋平成看護医療専門学校				名古屋平成看護医療専門学校				
看護学科	40	-	120	看護学科	40	-	120	
理学療法学科	30	-	120	理学療法学科	30	-	120	
柔道整復学科	30	-	90	柔道整復学科	30	-	90	
はり・きゆう学科	40	-	120	はり・きゆう学科	40	-	120	
アスレティックトレーナー学科	25	-	50	アスレティックトレーナー学科	25	-	50	
計	165	-	500	計	165	-	500	
日本総合医療専門学校				日本総合医療専門学校				
柔道整復学科	30	-	90	柔道整復学科	30	-	90	
鍼灸学科	30	-	90	鍼灸学科	30	-	90	
計	60	-	180	計	60	-	180	
福島医療専門学校				福島医療専門学校				
柔整科 1部	60	-	180	柔整科	60	-	180	
鍼灸科 1部	30	-	90	鍼灸科	30	-	90	
歯科衛生士科 1部	40	-	120	歯科衛生士科 1部	40	-	120	
歯科衛生士科 2部	40	-	120	歯科衛生士科 2部	40	-	120	
日本語学科	90	-	90	日本語学科	90	-	90	
計	260	-	600	計	260	-	600	
和歌山看護専門学校				和歌山看護専門学校				
看護学科3年課程	50	-	50					令和6年3月廃校予定
計	50	-	50					